

保存版

地域づくり提案助成事業

三河校区

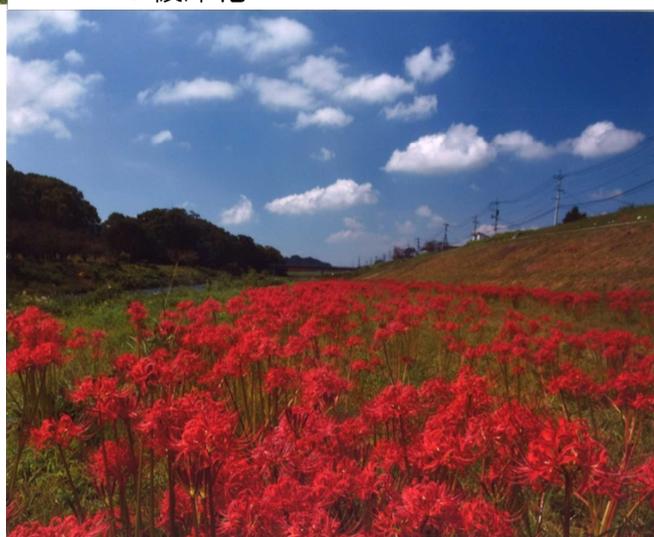
地域振興計画



矢部川堤防（遊歩道）に咲く ▲月見草

人と自然がとけあうまち
三 河

▼彼岸花



平成 28 年 3 月

三河校区まちづくり協議会

目次

第1章 はじめに

1. 地域振興計画策定の趣旨 1

第2章 三河校区の概況

1. 位置・地勢 2
2. 人口等の動向 2

第3章 現況と課題

1. まちづくりアンケート調査結果と要旨 . . . 3～12
2. 住民意見の抽出（ワークショップ） 13～17
3. まちづくりの主要課題 18～19

第4章 地域がめざす将来像

1. まちづくりのテーマ（将来像） 20
2. まちづくりの分野別基本方針 20～21

第5章 主な施策

1. 分野別施策 22～27

第6章 その他

1. まちづくり団体とは 28
2. 地域振興計画とは 28

付属資料

1. アンケート調査意見集 30～43
2. 地域振興計画策定委員名簿 44

第1章 はじめに

1. 地域振興計画策定の趣旨

私たちが住む「三河」の名は、三河堰（現、南中学校正門前）から取ったもので、井堰は花宗川の水をせき止めて、引道（ひきみち）川、下今（しもいま）川、酒井田（さかいだ）川の三つの川（三河）を作っています。三河校区は、矢部川の清流に包まれた美しい景観と豊かな自然環境に恵まれ、地形は概ね平坦地で昔から地域全体に田畑が広がり、農地整備も進み農業系の土地利用が主体となっています。主要幹線道路として県道玉名八女線が南北方向の軸を形成し、沿道には店舗や医院等も立ち並んでおり、地域内には「べんがら村」や「宮野公園」などの観光スポットがあります。また、坂本繁二郎画伯や陶芸家の酒井田柿右衛門などの著名人との関係も深く、多くの来訪者があります。

このように、豊かな自然環境と文化に恵まれた地域の中で、私たちは快適で利便性の高い生活と安全で安心して暮らせる地域を願っています。しかし近年、これまで培われてきた地域住民の相互扶助や連帯意識、助け合う精神は年々薄れ、機能しにくくなってきています。また、少子高齢化をはじめ、共働き世帯の増加や核家族化の進行などにより、生活様式も大きく変わり、一人暮らしの高齢者世帯の増加など、安全・安心のまちづくりの視点から新たな問題や課題が発生しています。一方、住民の行政サービスへのニーズは多様化傾向にあり、行政としても十分応えることができないようになってきています。

こうした背景を考えると、三河校区に住む私たちは、行政に頼るばかりでなく、住民相互の結びつきを深めながら地域が抱える課題を自ら克服し、子どもから高齢者まで将来に向けて安心して生き生きと暮らすことができ、「三河校区に住んで良かった」「三河校区に住んでみたい」と思えるような誇れる地域づくりを進めていくことが大事だと考えます。

これからのまちづくりには、まず私たち住民自身が、地域の良さ、地域の課題を認識したうえで、あるべき地域の将来を描き、今取り組んでいる活動を含め、できることを実践していくことが重要であり、また、住民と行政がそれぞれの役割と機能を分担することで、協働としての取り組みの相乗効果が期待でき、困難な地域課題も解決できると考えます。

このような考え方に立ち議論を重ね策定したものが、今回の「地域振興計画」であり、概ね10年後を目標に、三河校区の住民が主体となって進める新しいまちづくりの指針とします。

なお、内容的にはいろいろなご意見があるかと思いますが、今後「地域振興計画」を取り巻く状況の変化に対応しながら見直しを行い、常に、時代の潮流や地域状況の変化等に対応した計画づくりをめざします。

三河校区まちづくり協議会
三河校区地域振興計画策定委員会

第 2 章 三河校区の概況

1. 位置・地勢

三河校区は、旧八女市の南部に位置し、南は立花町に隣接しています。地形は概ね平坦で田畑が広がっており、立花町との境界部には一級河川の矢部川が流れ、美しい景観と自然豊かな空間が広がっています。

農地の基盤整備も進み水田や施設園芸等の土地利用が主体の地域で、集落は福島地域との隣接部や県道玉名八女線沿道など数カ所にまとまって形成され、道路面では同じく県道玉名八女線が主要幹線道路として南北方向の軸を形成し、県道柳瀬筑後線が東西軸を形成しています。しかし、地域内の道路は幅員が狭く、歩道の設置も不十分な状況です。

また、地域内には「べんがら村」があり、市内外から多くの観光客が訪れ、近接した「宮野公園」は、市民の憩いの場となっています。

2. 人口等の動向

三河校区の人口は、各行政区間の差はあるものの、全ての行政区で減少傾向にあります。しかし、世帯数は増加もしくは横ばいとなっていることから、一世帯当たりの世帯構成員が減少し、核家族化が進行していると考えられます。

(1) 三河行政区毎の人口・世帯の推移（住民基本台帳より）（各年度の3月31日現在）

行政区名	平成 11 年度		平成 16 年度		平成 21 年度		平成 26 年度	
	人口(人)	世帯(戸)	人口(人)	世帯(戸)	人口(人)	世帯(戸)	人口(人)	世帯(戸)
酒井田	812	214	776	224	796	252	781	261
高塚	1,209	392	1,150	391	1,139	419	1,154	442
宮野	370	106	343	103	357	113	333	117
上柳瀬	218	61	189	56	169	57	162	63
中柳瀬	230	68	221	68	221	71	209	81
下柳瀬	206	55	197	52	192	54	191	60
矢原	299	82	268	84	246	79	231	82
光	249	66	241	63	196	63	185	64
緒玉	291	71	293	81	276	81	282	93
合計	3,884	1,115	3,678	1,122	3,592	1,189	3,528	1,263

※平成 26 年度は外国人を含む

※参考：旧八女市人口等の推移（住民基本台帳より）（各年度の3月31日現在）

年度	男(人)	女(人)	合計(人)	世帯数(戸)	備考
平成 11 年度	18,835	20,933	39,768	11,866	◆平成 18 年及び平成 22 年に市町村合併しましたが、三河校区との比較のため旧八女市分を記載しています。
平成 16 年度	18,474	20,655	39,129	12,375	
平成 21 年度	17,971	20,164	38,135	13,076	
平成 26 年度	17,804	20,024	37,828	13,981	

第3章 現況と課題

1. まちづくりアンケート調査と要旨

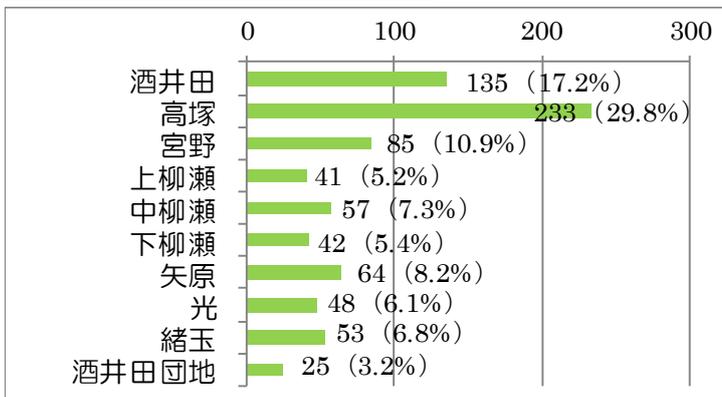
(1) まちづくりアンケート調査概要

調査時期	◆平成27年8月
調査配布数	◆914世帯 ◆各世帯に1枚（調査対象数は各行政区で選定） ◆回答者は三河校区に住む高校生以上
調査方法	◆行政区長から各隣組長を通じて直接配布及び回収
回収数	◆783世帯
回収率	◆85.7%（783世帯 / 914世帯）
主な調査内容	①回答者の属性 ②まちづくり協議会組織の認知度 ③まちづくり協議会活動への参加状況 ④住まいの状況 ⑤生活する上での不便や不安 ⑥将来どのようなまちにしたいか

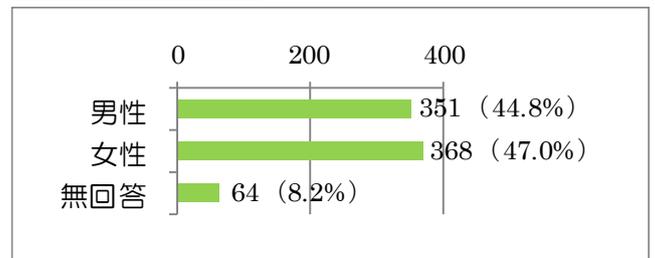
(2) 主な調査内容

①回答者の属性（数字は回答した人数及び割合）

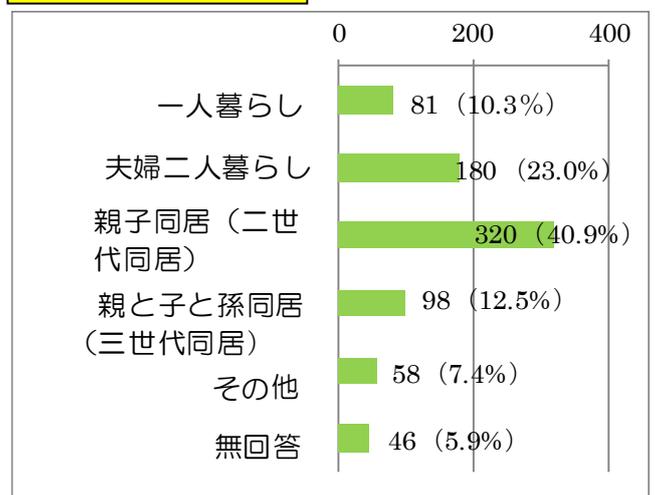
行政区毎の回収数 合計 783



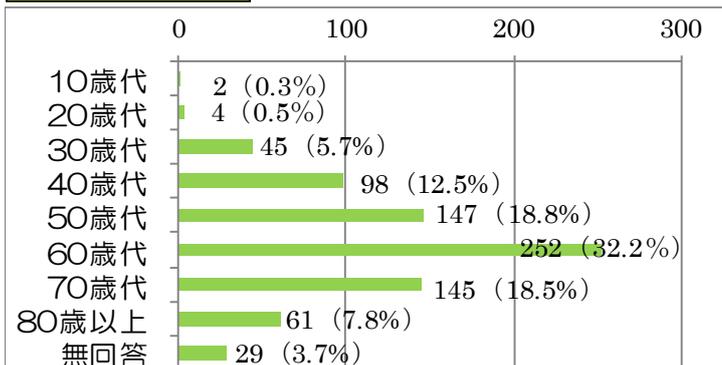
性別 合計 783



家族構成 合計 783



年齢 合計 783

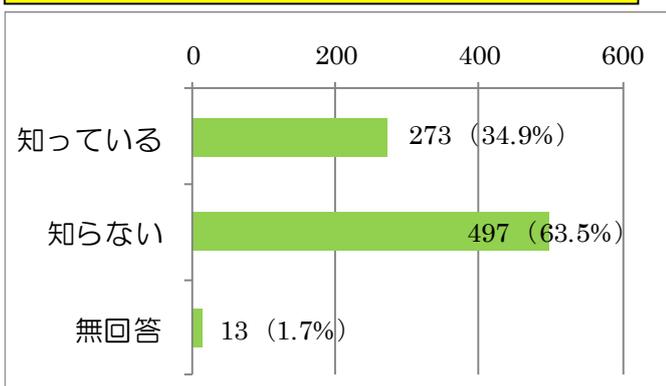


調査結果の要旨

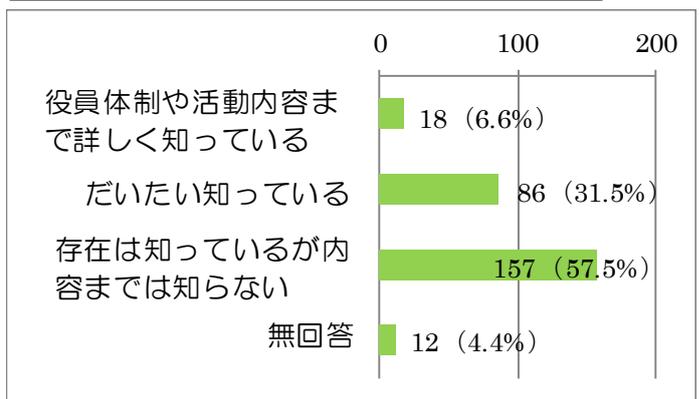
行政区毎の回収数	◇概ね世帯数が多い行政区順に、比例した回収数となっています。
性別	◇女性の回答が多い結果となっていますが、64人が性別不明（無回答）となっています。
年齢	◇回答は高校生以上としていましたが、60歳以上の回答が58.5%となっており、高齢者の回答が多くなっています。一概に言えませんが、これは1世帯1枚配布のため、各家庭の家族構成（高齢者が世帯主）等の事情によるものと思われます。また、高齢者のみの世帯も増えていることも要因として考えられます。
家族構成	◇二世帯、三世帯同居がまだまだ多い現状ですが、夫婦二人暮らしや一人暮らしも全体の33.3%となっており、今後も増える可能性があります。

②まちづくり協議会組織の認知度（数字は回答した人数及び割合）

まちづくり協議会を知っているか。合計 783



まちづくり協議会を知っている人がどこまで知っているか。合計 273

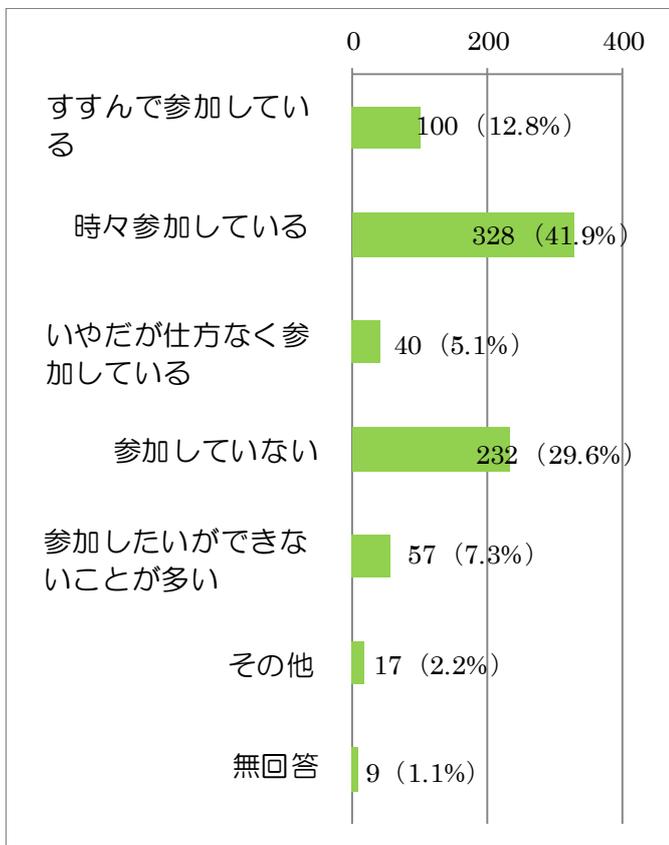


調査結果の要旨

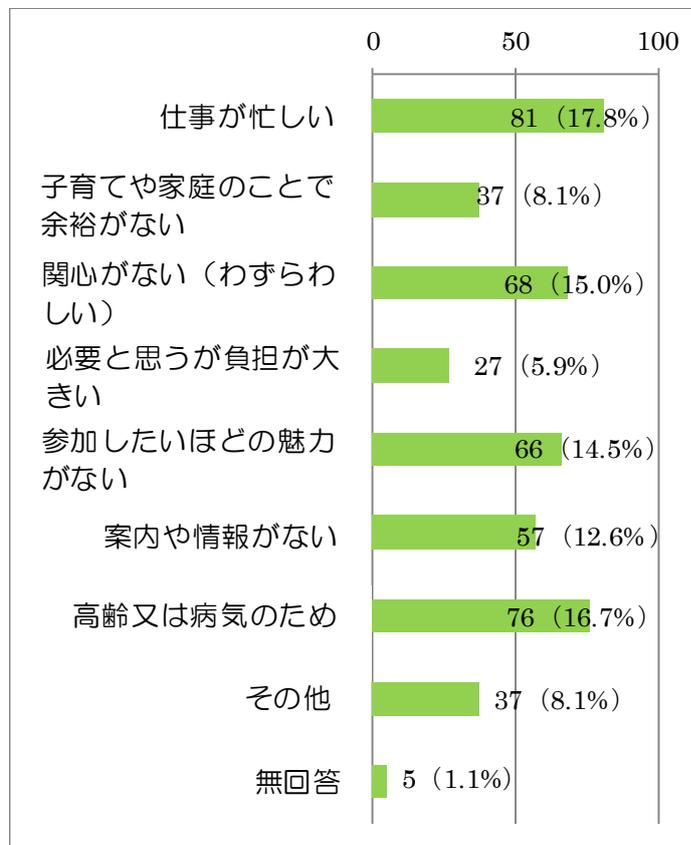
まちづくり協議会組織の認知度	◇三河校区まちづくり協議会を知らないと答えた人が497人（63.5%）で、全体的に知らない人が多い結果となっています。今後とも、まちづくり協議会からの情報発信が必要となっています。
まちづくり協議会組織を知っている人がどこまで知っているか	◇三河校区まちづくり協議会を知っていると答えた人が273人いますが、その人達がどこまで知っているかに対し、「存在は知っているが内容まで知らない」と回答した人が157人で半数以上（57.5%）となっています。 まちづくり協議会を知っている人が比較的少ない上、知っていても内容まではよく知らない人が多い結果となり、活動や運営方法など今後検討していく必要があります。

③まちづくり協議会活動への参加状況（数字は回答した人数及び割合）

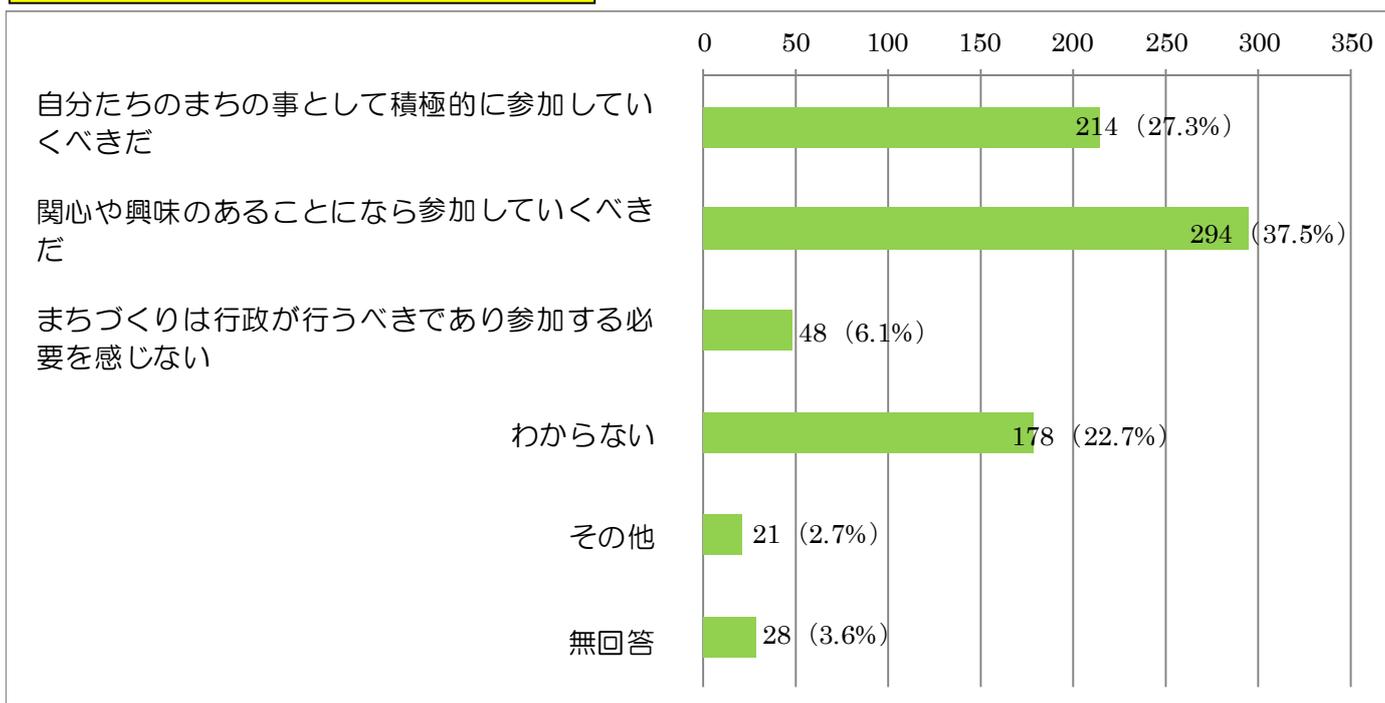
まちづくり協議会及び地域における活動や行事に参加しているか。合計 783



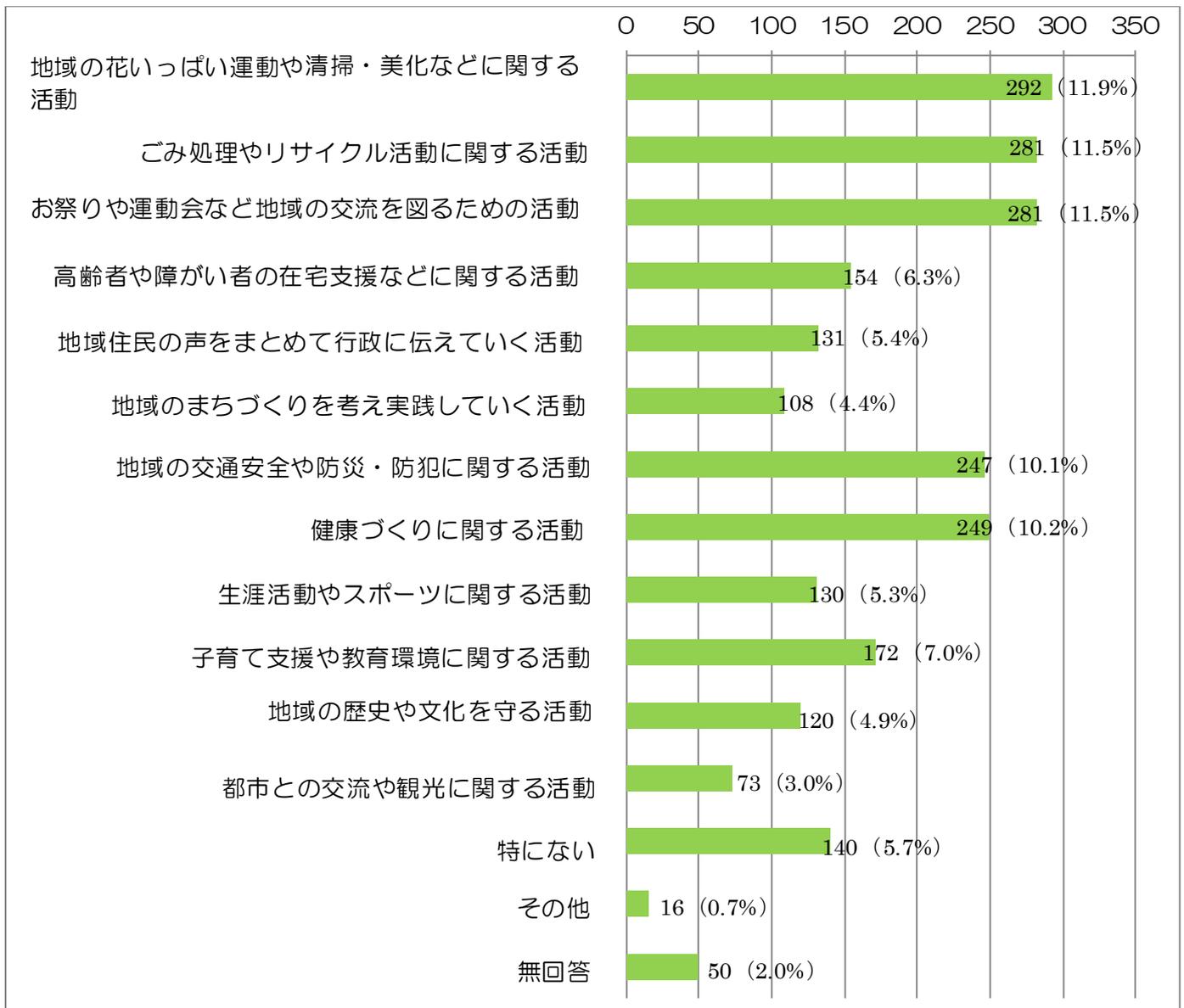
活動や行事に参加していない理由は。合計 454



活動や行事に対する参加意識。合計 783



参加したい活動。合計 2,444（複数回答）



緒玉行政区水路清掃活動



校区運動会



坂本繁二郎画伯アトリ工跡
三河小学校5年生清掃作業



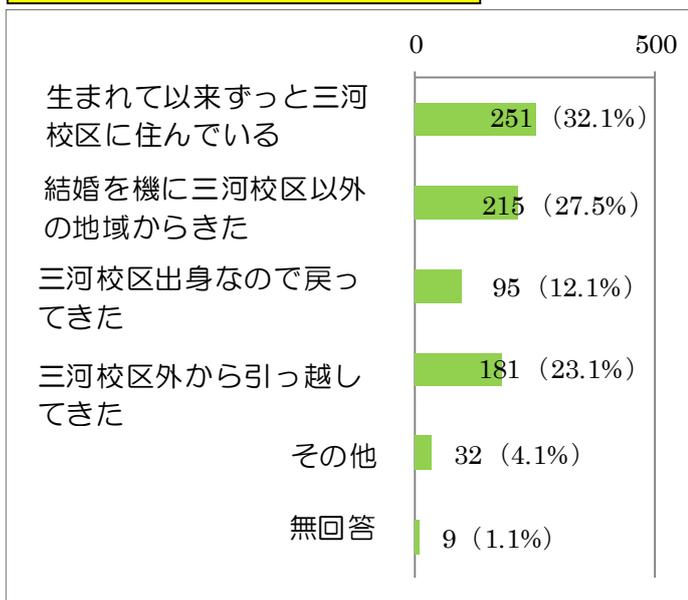
調査結果の要旨

<p>まちづくり協議会及び地域における活動や行事への参加状況</p>	<p>◇「時々参加している」と答えた人が最も多く328人(41.9%)、「すすんで参加している」「いやだが仕方なく参加している」を合わせれば、「参加している人」は468人(59.8%)となっています。</p> <p>反面、「参加していない」「参加したいができないことが多い」と回答した人は289人(36.9%)となっています。</p>
<p>活動や行事に参加していない理由</p>	<p>◇「参加していない」「参加したいができないことが多い」と回答した289人の参加出来ない理由(複数回答)で一番多かったのは「仕事が忙しい(17.8%)」、次いで「高齢または病気のため(16.7%)」となっており、回答者の世代を反映していると考えられます。</p> <p>一方「関心がない(わずらわしい)」「参加したいほどの魅力がない」を合わせると全体の29.5%の回答があり、活動や行事等についての在り方について検討する必要もあります。また、「案内や情報がない」についても12.6%の回答があることから、情報発信や連絡網の強化が求められています。</p>
<p>活動や行事に対する参加意識</p>	<p>◇活動や行事に参加する考え方については、「関心や興味のあることなら参加していくべきだ」の回答が一番多く294人(37.5%)で、次に多かったのが「自分たちのまちの事として積極的に参加していくべきだ」が214人(27.3%)となっています。この2つの回答は、自分の都合(関心や興味がある活動)に立つのか、住民としての義務的立場に立つのかと考えれば、自分の都合で参加する考え方の人が多い結果になっています。</p> <p>このことを考えると、活動や行事の内容についてもっと人を魅せる更なる工夫と検討が求められています。</p>
<p>参加したい活動</p>	<p>◇参加したい活動を多い順に、かつ分野別に整理しました。</p> <p>①安全・安心の生活環境と健康福祉分野 (延べ1,233人)</p> <p>★ごみ処理やリサイクル活動281人 ★健康づくり活動249人</p> <p>★地域の交通安全や防災・防犯活動247人 ★子育て支援活動172人</p> <p>★高齢者や障がい者支援活動154人 ★生涯活動やスポーツ活動130人</p> <p>②人と地域の交流分野 (延べ520人)</p> <p>★お祭りや運動会など地域の交流活動281人</p> <p>★地域住民の声を行政に伝えていく活動131人</p> <p>★地域のまちづくりを考え実践していく活動108人</p> <p>③自然と歴史・文化分野 (延べ412人)</p> <p>★地域の花いっぱい運動や清掃・美化活動292人</p> <p>★地域の歴史や文化を守る活動120人</p> <p>④地域産業振興分野 (延べ73人)</p> <p>★都市との交流や観光活動73人</p>

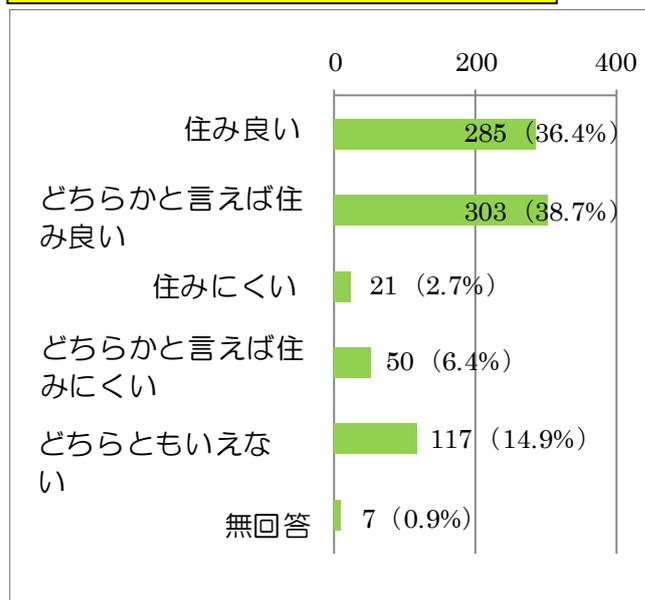
ここで4つの分野に仕分けした項目をまちづくり分野別テーマとして設定します。

④住まいの状況（数字は回答した人数及び割合）

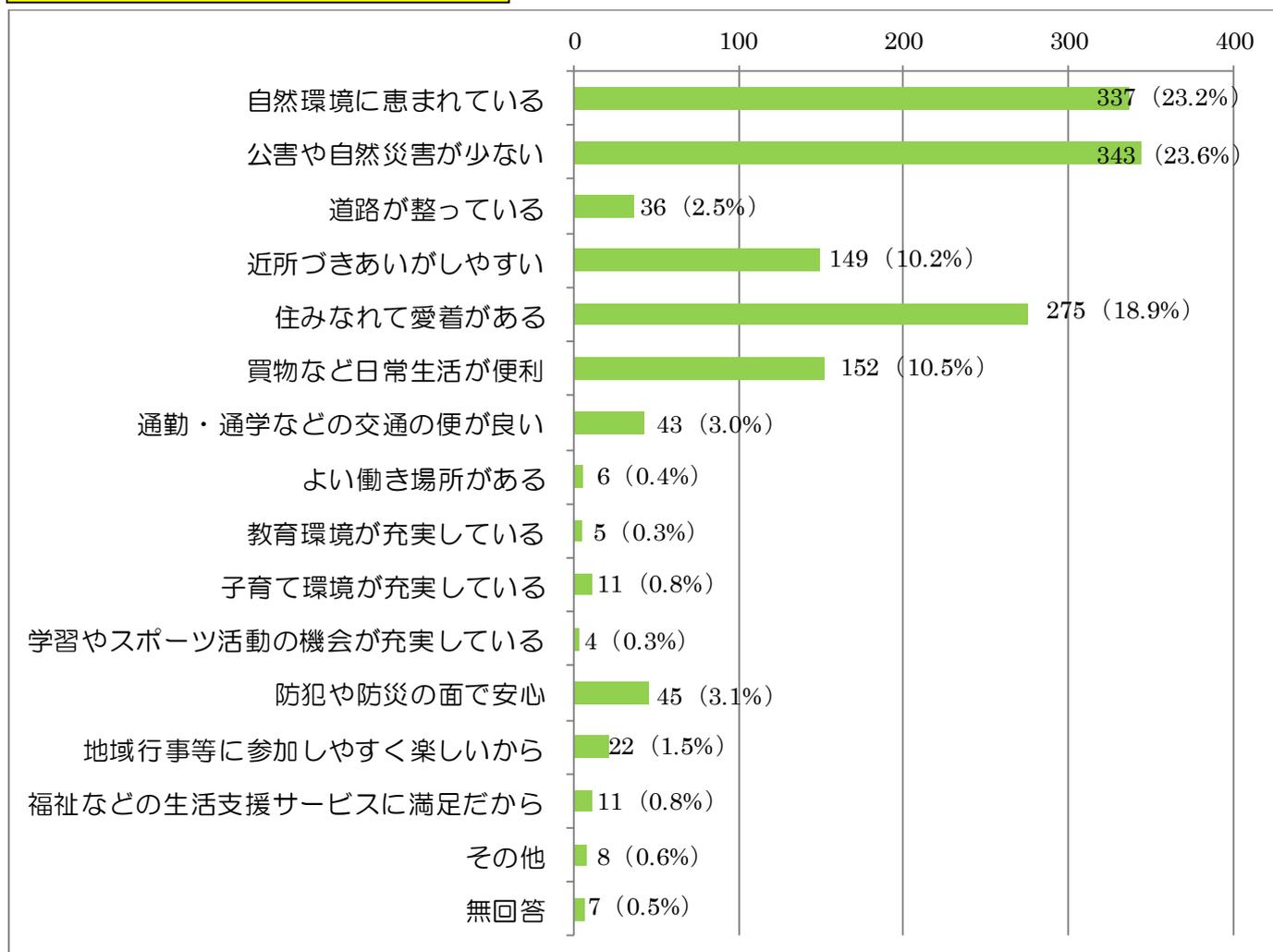
いつから住んでいるか。合計 783



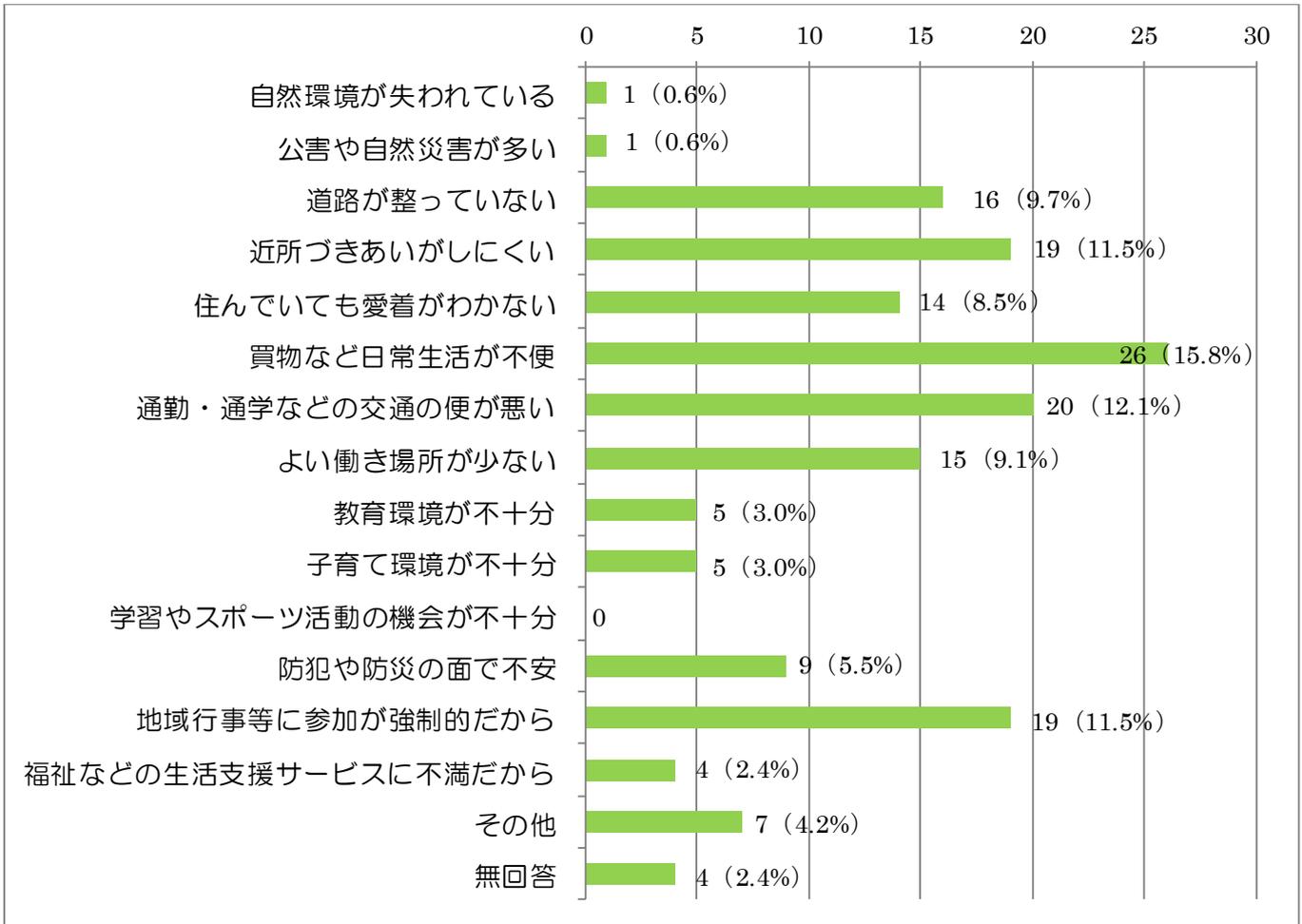
住み良いか・住みにくいか。合計 783



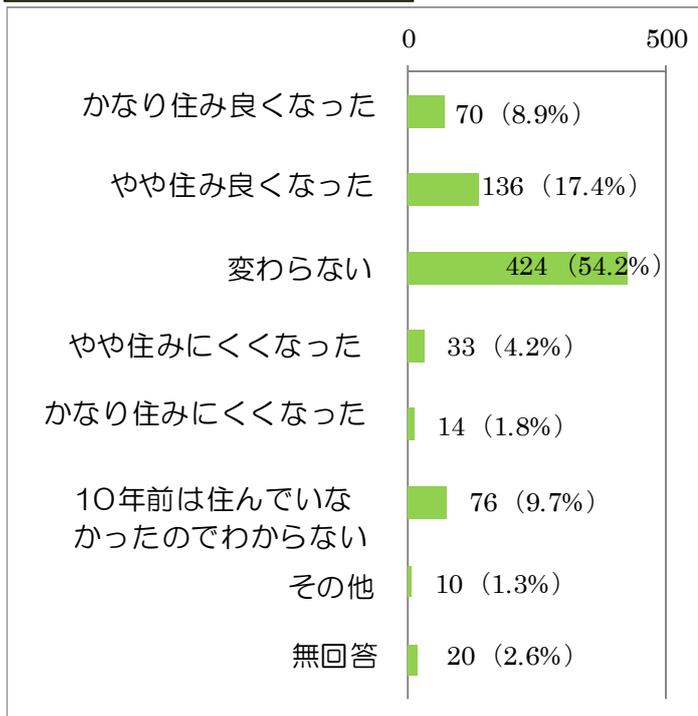
住み良い理由。合計 1,454（複数回答）



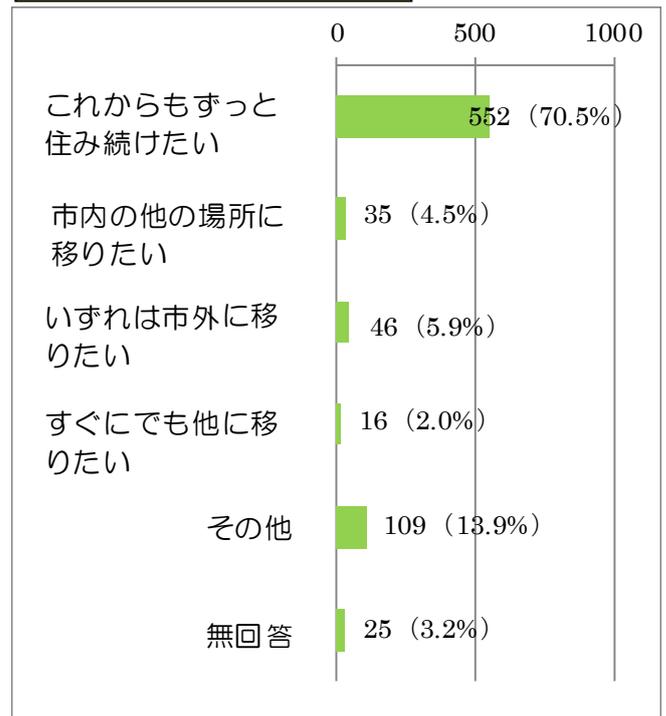
住みにくい理由。合計 165（複数回答）



10年前と比べて。合計 783



住み続けたいか。合計 783

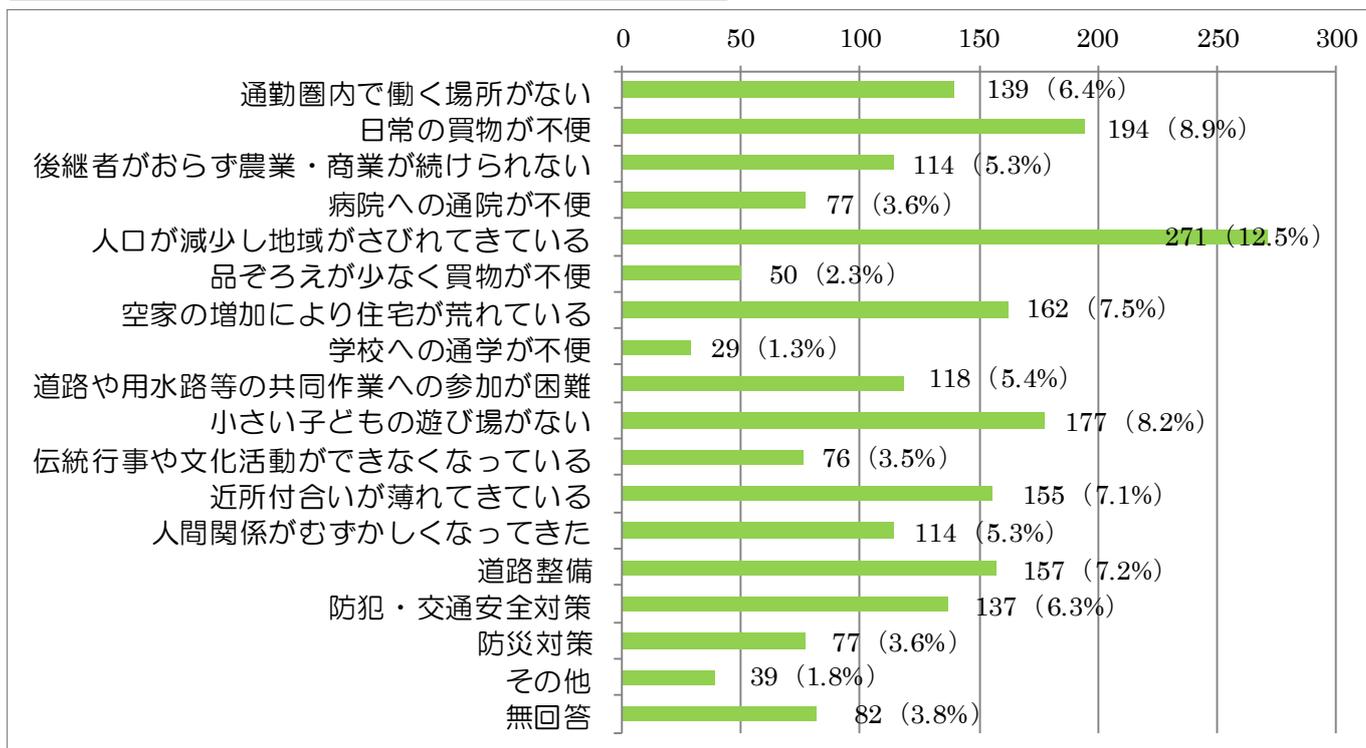


調査結果の要旨

いつから住んでいるか	<p>◇最も多い回答は「生まれて以来ずっと三河校区に住んでいる」が251人(32.1%)で、その内男性の回答が66.5%になっています。次に多かった回答は「結婚を機に三河校区以外の地域からきた」215人(27.5%)で、回答者の79.1%が女性となっています。また、「三河校区外から引っ越してきた」と回答した人も181人(23.1%)となっていますが、行政区間に差が見受けられます。</p> <p>生まれてずっといるのは男性が多く、当然ですが女性は結婚を機に三河校区に住むようになり、一方では、三河校区外から引っ越して来た人も多くなってきたことが判ります。</p>
住み良いか・住みにくいか	<p>◇「住み良い」「どちらかと言えば住み良い」を合わせれば、588人(75.1%)となり、多くの方が住み良いと回答しています。一方、「住みにくい」「どちらかと言えば住みにくい」と回答した人を合わせれば71人で全体の9.1%となっています。</p>
住み良い理由	<p>◇「住み良い」「どちらかと言えば住み良い」と回答した588人の理由は、多い順に「公害や自然災害が少ない」「自然環境に恵まれている」「住みなれて愛着がある」と続いており、この上位3項目が住み良い回答理由の65%以上を占めています。</p>
住みにくい理由	<p>◇「住みにくい」「どちらかと言えば住みにくい」と回答した71人の理由は、多い順に「買物など日常生活が不便」「通勤・通学などの交通安全の便が悪い」「近所づきあいがしにくい」「地域行事等に参加が強制的だから」などと続き、上位の回答項目を合わせれば全体の50.9%となっています。</p>
10年前と比べて	<p>◇「変わらない」と答えた人が424人(54.2%)で、半数以上の方が「住みやすさ」「住みにくさ」についての変化を感じていないことが伺えます。しかし、「かなり住み良くなった」「やや住み良くなった」を合わせれば、206人(26.3%)の回答があり、逆に「やや住みにくくなった」「かなり住みにくくなった」を合わせた47人(6%)と比較すれば、傾向としては「住みやすい」に向かっていると考えられます。</p>
住み続けたいか	<p>◇回答全体の70.5%(552人)の人が「これからもずっと住み続けたい」と回答しています。他方「移りたい」との回答も、「市内の他の場所に移りたい」「いずれは市外に移りたい」「すぐにでも他に移りたい」を合計すれば、97人(12.4%)の回答となっています。「移りたい」との回答割合は行政区間に差があります。</p>

⑤生活する上での不便や不安（数字は回答した人数及び割合）

生活する上での不便・不安。合計 2,168（複数回答）



調査結果の要旨

生活する上で、不便や不安を感じること

◇「人口が減少し地域がさびれてきている」271人（12.5%）が最も多く、2番目に「日常の買物が不便」194人（8.9%）、3番目が「小さい子どもの遊び場がない」177人（8.2%）、4番目が「空家の増加により住宅が荒れている」162人（7.5%）、5番目が「道路整備」と続いています。下記のとおり若年層と高齢者層の不便や不安の回答内容に若干の差が見られます。（年齢不明者の回答除く）

★若年層（10歳代～50歳代）の多い回答順

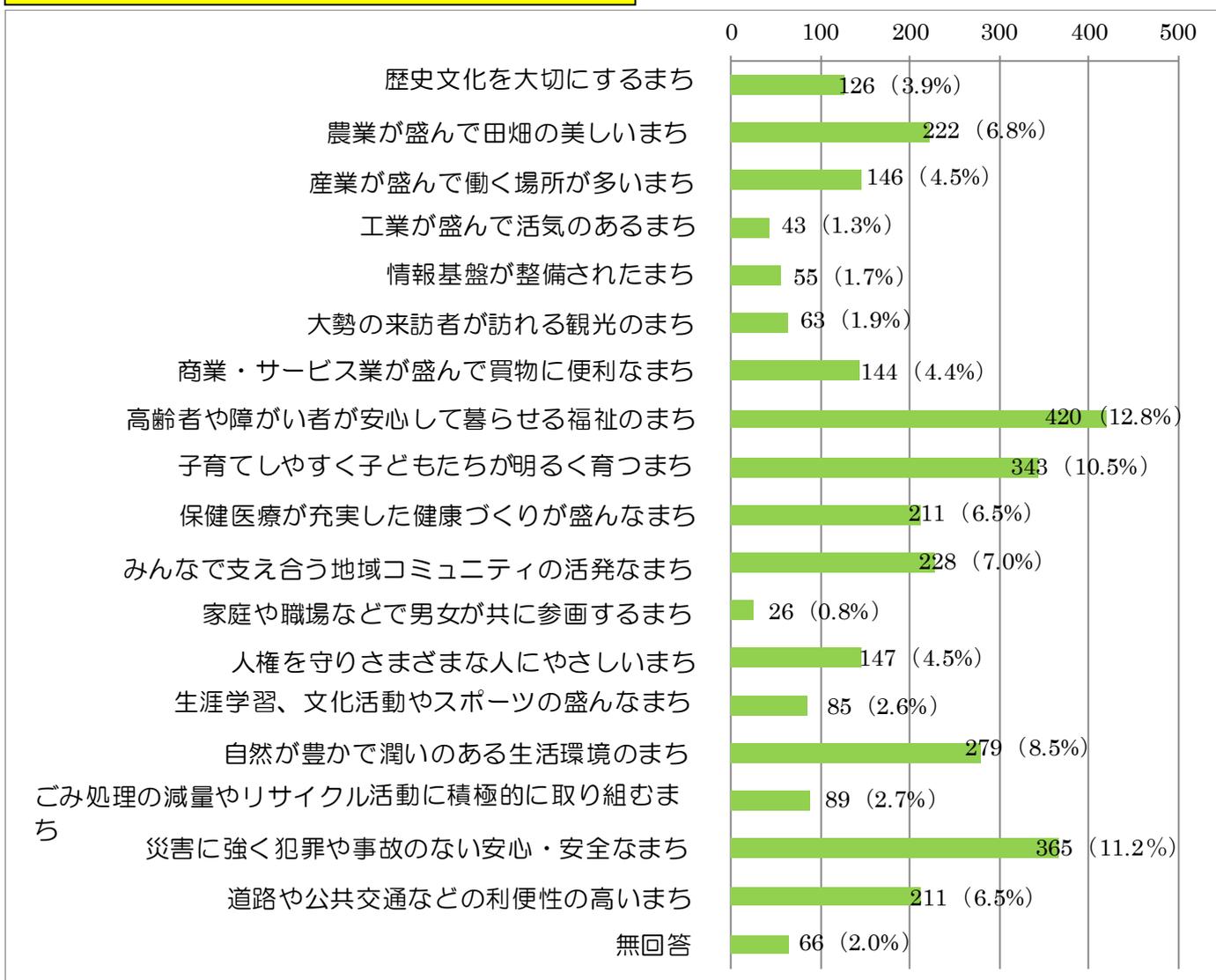
- 1位「人口が減少し地域がさびれてきている」（回答数 103）
- 2位「小さい子どもの遊び場がない」（回答数 91）
- 3位「防犯・交通安全対策」（回答数 60）
- 4位「日常の買物が不便」と「道路整備」（同数）（回答数 58）
- 5位「通勤圏内で働く場所がない」（回答数 55）

★高齢者層（60歳代～80歳以上）の多い回答順

- 1位「人口が減少し地域がさびれてきている」（回答数 158）
- 2位「日常の買物が不便」（回答数 127）
- 3位「近所付き合いが薄れてきている」（回答数 114）
- 4位「空家の増加により住宅が荒れている」（回答数 104）
- 5位「道路整備」（回答数 88）

⑥将来どのようなまちにしたいか（数字は回答した人数及び割合）

あなたが考える将来のまち。合計 3,269（複数回答）



調査結果の要旨

<p>あなたが考える将来のまちづくり</p>	<p>◇回答の多い順に整理すると</p> <p>1 位「高齢者や障がい者が安心して暮らせる福祉のまち」420 人</p> <p>2 位「災害に強く犯罪や事故のない安心・安全なまち」365 人</p> <p>3 位「子育てしやすく子どもたちが明るく育つまち」343 人</p> <p>4 位「自然が豊かで潤いのある生活環境のまち」279 人</p> <p>5 位「みんなで支え合う地域コミュニティの活発なまち」228 人</p> <p>以下続いています。これら上位をまとめると、「自然豊かな環境の中で災害や犯罪がなく、高齢者福祉や障がい者福祉、子育て支援などが充実し、みんなが支え合い助け合って暮らせる住みやすいまちづくり」を願っていることが推察されます。</p>
------------------------	---

2. 住民意見の抽出（ワークショップ）

（１）テーマ別フリー・トーク概要

テーマ	みんなが出した主な意見
① 住み良いところ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境に恵まれている ・ 静かな環境 ・ 身近に水田、畑等があり、作物の成長を子どもたちに見せることができる ・ 周りの景色がよい、自然が多い （飛形山・矢部川・千間土居楠木） ・ 公害や自然災害が少ない ・ 歩道があるので散歩しやすい
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな事件がなくて、安心して住める ・ 防犯にあまり気を使わなくても良い
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物、通院は便利 ・ 通学は便利
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者への配慮がある ・ 子育てに良い環境である
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内会長のリーダーシップが良い、行事がスムーズにいく ・ 町内の雰囲気が良い ・ 活動、行事に協力的である ・ 地域の出事に出るのは、80歳以上は免除としているところがある
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼なじみが多く、安心して住める ・ プライバシーに踏み込まない ・ 隣近所の気心が知れている
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生まれて以来住んでいるので、愛着がある

地域振興計画策定委員会



グループに分かれてのワークショップ



テーマ	みんなが出した主な意見
②住みやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 矢部川の雑木林が洪水の時心配 ・ 大雨時の洪水が心配 ・ 堤防の決壊が心配
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路が狭く危険、車がスピードを出して通る ・ 危険な箇所に止まれなどの道路標識等が少ない ・ 道路が狭いのに大型トラックの通行が多い ・ 交通インフラが悪い、三河と八幡は特に ・ 県道が筑後市と比べて狭い ・ 筑後は企業があり、JRもあり道も整備されている、八女は遅れている
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者にとって買い物が不便 ・ 勤務先が遠い ・ 通院が不便 ・ バスなど公共交通の便が悪い、タクシー利用は経済的に負担となる ・ 乗合タクシーが利用しにくい ・ 近所にスーパーがない ・ 公共の建物が遠い、図書館になかなか行かない ・ 必ず車が必要 ・ 歳をとったら不安がある
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家が多くなった (雑草が周りに迷惑・火災が心配・犯罪につながる)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働く場所が近くになく若者が定住しない ・ 若い人が少ない ・ 昔からの行事が多く、若い人が定住しない ・ 小さい子がいない
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の行事に人が集まらなくなった、特に子ども達に参加しないと意味がない ・ 同年代の人たちとの交流の機会がない ・ 行事が固定している(消化している感じ)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人のうわさ(偏見)がすぐ広がる ・ 近所づきあいが以前からするとしにくくなった
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宮野公園や遊歩道をうまく使いきれていない
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 50年変わっていない田舎だ

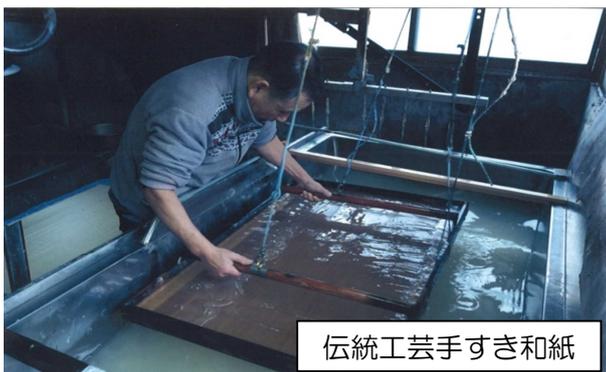
酒井田行政区 酒井田柿右衛門旧家跡碑



高塚行政区 頭布さん(高塚地頭)



テーマ	みんなが出した主な意見
③大切にしていきたいモノ	・ 伝統工芸品和紙づくり
	・ 歴史ある三河校区運動会
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 千灯明（酒井田行政区） ・ よど祭りで地域がつながる ・ 子ども相撲 ・ カラオケ大会
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内夏まつり ・ 9月のまつり、子どもみこしが出る ・ 演芸大会
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども活動（ホッケンギョ・廃品回収）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホッケンギョ、左義長、小正月の火祭り行事。昔は子どもが作っていたが、今は大人が作っている
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの見守り ・ 矢部川土手沿いの桜、月見草、彼岸花は人々がいやされている ・ 矢部川土手沿いの草刈りをボランティアで行っている ・ 矢部川堤防沿いの遊歩道



テーマ	みんなが出した主な意見
④生活する上での不便や不安、課題	<ul style="list-style-type: none"> ・矢部川にビニールや大木が引っ掛かり、ごみがたまって見苦しい ・犬のフン、猫のフンに困っている ・不法投棄がある
	<ul style="list-style-type: none"> ・道路幅が狭い、危険箇所が多い ・市道の速度抑制標示の変更、スピード車両が多い ・交通安全、防犯対策の徹底 ・道路の整備が遅れている
	<ul style="list-style-type: none"> ・矢部川堤防の決壊 ・災害時の避難と安全確保 ・消防団員が減っているので不安 ・若者は外、老人ばかりで空き家が多くなっている ・空き家が多く、火災、防犯、災害等に不安 ・オレオレ詐欺、訪問押し売りなどへの対策
	<ul style="list-style-type: none"> ・町に遠い ・交通アクセスが悪く、買い物や通院等に不便 ・公共交通の拡充 ・乗合タクシーの改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに働く場所が少ない
	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が多くなり、道路愛護や共同作業が困難 ・若い人が少ない、ますます高齢化が進んでいる ・高齢者の支援 ・子どもの遊び場がない
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のコミュニケーションが、以前より少なくなった ・近所付き合いが薄れてきている ・町内の出事に対し、隣組数が少ないので1軒に2人出ている
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の発展はおろか過疎地域となっている

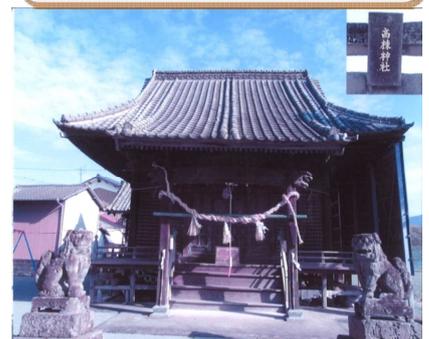
宮野行政区 宮野公園



下柳瀬行政区 県道玉名八女線



矢原行政区 築300年高棟神社



テーマ	みんなが出した主な意見
⑤ 住み良い三河校区にするため何が必要か	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然環境に恵まれている、それらを生かし多くの人に住んでもらう工夫が必要 ・ 矢部川土手沿いの景観作業（草刈り、花植栽、桜の木の管理） ・ 自主的な地域清掃活動
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路の整備 ・ 空き家対策、空き家利用促進 ・ 下水道事業の早期着工
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯、防災の充実（組織はあるが、活動が不十分） ・ 不審者への対応（見守り、監視体制の強化） ・ 防犯灯（街灯）の設置 ・ 危険場所、立て看板の見直し（修理、新設）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者、障がい者にやさしい環境づくり ・ 高齢者、子どもが安心して住めるまち（安全面の強化、交通安全指導ほか） ・ 子どもの遊び場確保 ・ 小、中、高校生を地域で支える（声かけ、見守り活動） ・ 青少年育成と地域住民交流（ウォークラリーの実施） ・ 子どもが少ない（子育て環境の充実） ・ 子どもサポートセンターの充実
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業誘致、若者の定住化 ・ 農業振興、後継者対策
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の歴史、文化の継承と啓発 ・ 文化活動やスポーツ活動の充実 ・ イベントに若い人の参加が少ない ・ 運動会、地域行事等への参加推進（回覧、チラシ、情報の徹底）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人と人のつながりを豊かにする
	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちづくり行事や地域行事に対し協力する人、しない人がいるが、まずやれる人がやっていく、それにより輪が広がっていく。要は何かをやっていくこと、続けることが大事

光行政区 松石公園



緒玉行政区 芝桜



3. まちづくりの主要課題

アンケート調査及びワークショップから見えてきた現況と課題の中から、主要課題を次のように整理します。

◆まちづくりの主要課題

- (1) 自然環境・景観充実への取り組み
- (2) 歴史・文化の継承
- (3) 安全・安心な地域の確立
- (4) 健康・福祉環境の充実
- (5) 少子・高齢化社会への対応
- (6) 地域活動と住民交流&住民の関心と参加意欲の向上
- (7) 地域産業の活性化

(1) 自然環境・景観充実への取り組み

矢部川や宮野公園をはじめ圃場整備された水田地帯に加え、校区内から眺めることができる飛形山、千間土居など豊かな自然と四季折々の草花や桜の開花、稲穂など、景観のすばらしさに人々は魅了され癒されています。こうした背景には、住民自らが行っている花の植栽や草刈り、清掃など地域ごとに景観保全や自然を守り育てる取り組みが挙げられます。しかし、一方ではごみや空き缶をはじめ不法投棄やポイ捨て、犬・猫等のフン処理などモラル上の問題が指摘されています。また、草刈りや清掃作業など、住民が行う活動への不満（作業が多過ぎる）の声も聞かれ、今後作業出役の在り方等が求められていますが、景観を維持・保全・向上するためには、これまで通り住民による適切な管理を続けていく必要があります。

(2) 歴史・文化の継承

校区内には、酒井田柿右衛門誕生の地や光明寺跡地、坂本繁二郎画伯アトリ工跡地、深田遺跡など史跡や記念碑があるにも関わらず、子ども達も歴史・文化に触れる機会が少なくなっている一方、千灯明・ホッケンギョなど古くから各地域に伝わる祭や伝統行事は、子どもを含め地域住民にも深く結びつき継承されています。

こうした現状を考えると、数多く存在する歴史遺産や文化を後世に残すためにも、改めてこれらをみんなが学び、継承・発展させるための活動が必要と思われます。

(3) 安全・安心な地域の確立

三河校区においては、自然災害や大きな事故・事件・火災も少なく安心して住めるとの声がある一方で、平成24年の九州北部豪雨災害の経験や全国的に問題となっている振込詐欺、また、空き家の増加に伴う火災や犯罪への懸念などにより、住民の不安も増してきています。

このような地域住民の不安に対する対策が必要で、今後安全・安心な地域の確立が求められています。

(4) 健康・福祉環境の充実

健康への関心は、アンケート調査からも伺えます。健康づくりについては個々の取り組みが最も大事ですが、効果的な健康づくりを進めていくためにも地域住民の連携や協力を図り、地域で取り組むことが必要と思われます。

福祉面については、公的なサービスだけでは支えることが厳しくなってきた中、住民による助け合いやボランティア活動など、地域住民による支援が必要となってきました。また、八女市社会福祉協議会が勧める福祉部会を設置することにより、地域福祉が進むものと思われます。

(5) 少子・高齢化社会への対応

少子・高齢化社会を迎え、核家族化の進展、生活様式の多様化などから、家族や地域で互いに支え合う力が弱くなってきている中、高齢者の一人暮らしや夫婦二人暮らしは益々増える傾向にあり、高齢者の不安や不便は買物や通院などとなっています。こうした高齢者への対応は、一番身近な隣り近所同士の支え合い、助け合いが必要となっています。

他方、子育てについては子ども達が安心して伸び伸びと遊べる公園など、子どもの遊び場や居場所の確保と、地域の中で安全・安心できる子育ての環境整備が求められています。

(6) 地域活動と住民交流 & 住民の関心と参加意欲の向上

アンケート調査から見ても、まちづくり活動や地域活動に対し、住民の関心と参加意欲に温度差があります。

地域活動や行事等に関心がない人もいれば、逆にもっと積極的に取り組むべきと考える人もいて、理解や認識の違いが伺われます。近年、地域住民同士のつながりが薄れていくことが懸念される中、今後は、地域住民の主体的な参加を促進するためにも、地域活動や行事等の見直しを含め、地域住民、関係機関、各種団体等が役割を分担し、住民の関心と参加意欲の向上に向けたまちづくりが必要と考えられます。

(7) 地域産業の活性化

三河校区では、地域全体に広がる豊かな田園に支えられ、農業が基幹産業として発展。

一方、伝統産業として手すき和紙をはじめ、提灯・仏壇等に関する伝統工芸は、文化的資源として今日まで受け継がれています。しかし、農業も伝統産業も社会情勢や環境の変化で、後継者の育成や地域の特徴を活かした地域活性化への取り組みが必要となっています。

第4章 地域がめざす将来像

1. まちづくりのテーマ（将来像）

第3章「現況と課題」から整理した7つの主要課題解決に向けて、三河校区のテーマ（将来像）を次のように設定します。

《まちづくりのテーマ》

自然と人にやさしく 安全・安心な まちづくり

～ 人と自然がとけあうまち 三河 ～

三河校区では、自然豊かな環境で人々がやさしくとけあい、各種団体とともに相互に助け合い、支え合う仕組みづくりと、安全・安心で暮せる地域を確立するため、地域で考え、地域住民自らが中心となり、住みよいまちづくりの創出を進めていきます。

2. まちづくりの分野別基本方針

三河校区の将来像「自然と人にやさしく 安全・安心な まちづくり」の実現に向けて、7つの主要課題をキーポイントに4つの分野別テーマを設定し、それぞれの目標と基本方針を掲げ、まちづくりに取り組んでいきます。

《7つの主要課題》

(1) 自然環境・景観充実への取り組み
(2) 歴史・文化の継承
(3) 安全・安心な地域の確立
(4) 健康・福祉環境の充実
(5) 少子・高齢化社会への対応
(6) 地域活動と住民交流&住民の関心と参加意欲の向上
(7) 地域産業の活性化

《4つの分野》

1. 自然と歴史・文化分野
2. 安全・安心と健康福祉分野
3. 人と地域の交流分野
4. 地域産業振興分野

1. 自然と歴史・文化分野

目 標

自然と伝統との共生を活かしたまちづくり

基 本 方 針	<input type="checkbox"/> 緑豊かな自然環境との共生に基づき、環境整備や景観保全及び美化活動を進めます。 <input type="checkbox"/> 地域の伝統文化や歴史遺産など地域資源を再確認すると共に、身近に感じる地域文化として継承していきます。
---------	--

2. 安全・安心と健康福祉分野

目 標

安全で安心して暮らせる豊かなまちづくり

基 本 方 針

- 地域での安全意識の向上を進めるため、自主的な交通安全活動を継続すると共に、安全・安心が確保できる交通環境づくりに取り組みます。
- 安全・安心を確保するため、災害時や緊急時などへの備えを自主的に行えるよう訓練や啓発していくと共に、地域全体で防災・防犯活動が行える体制づくりを進めます。
- 地域住民だれもが健康維持に努められるよう、小地域での健康増進活動や、高齢者・障がい者を支え合い、助け合う地域福祉活動を進めます。また、子ども達が地域に親しみながら健やかに成長できるよう、地域で子育てを支える取り組みを進めます。

3. 人と地域の交流分野

目 標

人と人の繋がりを豊かにするまちづくり

基 本 方 針

- 地域内の活動・伝統行事やイベント等を通して、住民交流が活発になることで、人と人の距離を身近に感じ、支え合う・助け合うと言った相互扶助精神を高めていきます。
- 地域活動や伝統行事等に対する、住民の関心と参加意欲の向上に向けた取り組みを進めます。

4. 地域産業振興分野

目 標

産業の充実で若い人が集まるまちづくり

基 本 方 針

- 農業や伝統産業（手すき和紙・提灯・仏壇他）を取り巻く環境は厳しい状況ですが、若者が夢の持てる地場産業を創造する地域づくりの支援を進めます。
- 高齢者や女性の得意分野を活かした取り組みとして、特産物の開発と直売所の開設などで、地産地消の地域づくりをめざします。
- 若者が定住できる産業の創出に向け、行政への提案、要望活動を進めます。

第5章 主な施策

1. 分野別施策

4つの分野別の将来目標や基本方針に沿って、現在取り組んでいることを含めて、今後取り組んでいく施策と実施主体、実施時期を以下に整理します。

※実施主体・実施時期については、27ページ「用語解説」を参照。

1. 自然と歴史・文化分野		自然と伝統との共生を活かしたまちづくり						
		施策	施策概要	実施主体			実施時期	
住民	協働			行政	短期	中期	長期	
①	自然と共生（意識啓発）活動	◇自然との共生を大切にする意識啓発（環境学習会ほか）に取り組み、住民理解を深めます。	○			○		
②	住民主体の清掃・美化活動	◇貴重な資源（矢部川河川敷など）を残し、活かすため草刈り、清掃、花の植栽など自然環境の保全と美化に取り組みます。		○		○		
③	モラル向上活動	◇自然環境と景観を守る住民のモラル向上に向けた啓発活動に取り組みます。	○			○		
④	不法投棄パトロール隊の設置	◇自然環境を守るためにも、不法投棄パトロール隊と不法投棄防止看板の設置を行います。		○			○	
⑤	歴史・文化の継承啓発講座	◇地域の歴史・文化・伝統行事等を身近に感じることのできるよう、啓発と理解のための講座（子どもを対象・住民を対象）を開催します。		○			○	
⑥	住民理解と改革	◇地域の歴史・文化・伝統行事等の住民理解を深めた上で、見直しや改革など伝統行事等を検証し、新しい文化として継承していきます。	○				○	
⑦	史跡等の案内板とマップ作製	◇子どもの頃から史跡や名所旧跡等について触れることができる環境づくりとPR活動を進めるため、史跡等案内板の設置やマップづくりを進めます。		○			○	

2. 安全・安心と健康福祉分野

安全で安心して暮らせる豊かなまちづくり

施策	施策概要	実施主体			実施時期			
		住民	協働	行政	短期	中期	長期	
安全・安心対策	① 登下校時のながらパトロールの取り組み	◇児童の登下校時を中心に何かをしながら（散歩、仕事、犬の散歩など）地域の見守りに取り組みます。	○			○		
	② 交通安全等危険箇所の実態調査と要望活動	◇道路など交通危険箇所の実態調査を行い、必要な措置として住民でできることは住民で行い、できない案件は関係機関へ要望し、安全な交通環境づくりに取り組みます。	○				○	
	③ 交通安全教室の開催	◇交通安全協会との連携により、子どもから高齢者までを対象に「交通安全教室」を開催し、運転者の立場と歩行者の立場からの交通ルールやマナーアップ向上等に努めます。		○		○		
	④ 自主防災・防犯組織の設置	◇地域一体となり、安全なまちづくりに取り組む体制づくりとして、自主防災・防犯組織を設置します。	○				○	
	⑤ リーダー研修会	◇自主防災・防犯組織のリーダー等を対象とした研修会等を開催し、地域防災力の向上に努めます。		○			○	
	⑥ 避難所・避難ルート（地域住民への周知徹底）	◇地域内における避難所や避難ルート、危険箇所等を小地域で確認のうえ、八女市作成の防災マップと照合点検を実施し、地域住民への周知を図ります。		○			○	
	⑦ 危険箇所の調査と関係機関への要望活動	（ア）危険箇所（洪水、路肩や河川の崩壊、地すべり箇所など）が予測される箇所を調査し、対策を講じます。（危険標示、立て看板の設置）		○		○		
		（イ）必要に応じ、対応について関係機関へ要望します。	○			○		
⑧ 防災訓練の講習会開催	◇定期的な防災訓練、救急応急手当講習会を開催します。		○		○			

施策	施策概要	施策概要	実施主体			実施時期		
			住民	協働	行政	短期	中期	長期
安全・安心対策	⑨ 要援護者等の把握と連絡網の体制確立	◇災害時における高齢者、障がい者など要援護者等に関する避難の手助けが、スムーズにできる体制を確立しておきます。	○			○		
	⑩ 防犯灯・防犯カメラの設置	◇日常生活の中で、防犯面における危険箇所等について点検調査を行い、必要な箇所には防犯灯及び防犯カメラを設置します。		○			○	
	⑪ 地域住民同士の見守り・声かけ活動	◇犯罪から地域住民を守るため、住民同士の見回り、声かけ活動を行います。	○			○		
	⑫ 防犯講習会の開催	◇知能犯罪が多発する中で、高齢者を守るため、地域が一体となり、情報提供や防犯講習会等を開催し未然に防げるよう努めます。		○		○		
	⑬ 消防団員の確保	◇適正配置が確保できるよう、消防団員の確保について取り組みます。	○			○		
健康対策	① 健康づくりで育む地域活動	◇地域住民の健康増進と地域住民同士の交流の効果を図るため、小地域でのラジオ体操会及び遊歩道を活用した歩く会の組織化を進めていきます。	○				○	
	② 特定健康診査の受診率向上運動	◇予防医学の取り組みとして、特定健康診査の受診率向上を進めていきます。		○			○	
	③ 健康講座の開催	◇高齢者を対象に、健康講座や勉強会を開催します。		○		○		
	④ 食育講習会の開催	◇食の大切さや食の安全性など、健康食の指導を兼ねた「食育講習会」を開催します。		○			○	
	⑤ 健康増進スポーツ交流会	◇手軽にできるスポーツやゲーム等を通じて、住民の健康増進に取り組みます。	○			○		

施策		施策概要	実施主体			実施時期				
			住民	協働	行政	短期	中期	長期		
少子化（子育て）対策	①	子ども達の居場所の調査と行政要望	◇子ども達のがのびのびと、安全で遊べる居場所を地域で調査し、住民で出来ることは進めていきます。また行政が取り組むべき必要な施策は要望していきます。			○			○	
	②	開かれた保育園・学校・地域行事	◇少子化が進む中で、保育園や学校と地域が連携し、学校行事と地域行事を互いに支え合うことができるよう努めます。				○		○	
	③	子育て世代への支援対策	◇子育て世代を地域で支えるため、子育て経験世代の協力と行政支援を受けながら交流会を進めていきます。				○			○
	④	自然とふれあう野外活動	◇矢部川を活用したカヌー教室・魚釣りなど、子ども達が自然とふれあう機会を進めます。				○			○
	⑤	子ども会活動の応援	◇子ども会活動に対し、要請があれば積極的に応援します。			○				○
高齢者・福祉対策	①	生き生きサロンの充実	◇高齢者が地域の中で集まって、茶話会等ができるようなふれあいの場づくりを充実していきます。				○		○	
	②	「向う三軒両隣り」小さな親切運動	(ア) 地域住民による助け合い、支え合い活動の実施（小地域福祉ネットワーク活動＝福祉部会の設置）				○		○	
			(イ) 独居高齢者等の見守り支援活動や相談・話し相手になる地域活動に取り組みます			○			○	
			(ウ) 買い物ボランティア活動を検討します。			○				○
		(エ) 草取り、掃除、電球交換などのボランティア活動を検討します。	○					○		
③	高齢者マンパワー教室の開催	◇高齢者がこれまで培ってきた物づくりや技術、知恵など得意分野を子ども達に教える教室を開催します。			○			○		

3. 人と地域の交流分野		人と人との繋がりを豊かにするまちづくり						
		施策	施策概要	実施主体			実施時期	
住民	協働			行政	短期	中期	長期	
①	人と地域力の向上 推進	(ア) 伝統ある「三河校区運動会」を引き続き取り組み、地域とより多くの住民が交流できるよう、内部で協議しながら拡充していきます。	○			○		
		(イ) スポーツ・レクリエーション等を通して、子どもからお年寄りまで世代を超えた地域の交流を進めます。	○			○		
		(ウ) 各行政区内の交流行事を継承し、若い世代の地域への愛着心を醸成します。	○			○		
		(エ) 地域コミュニティの充実のため、地域資源を活用した多目的広場などの整備を研究し、地域住民の顔が見える地域社会を築く施設等の提案・要望を行っていきます。		○				○
②	住民理解と啓発活動	◇上記のスポーツイベントや交流イベントなどの交流行事を通して、地域住民相互のふれあいや理解を深め、信頼関係を育むため、内容の改善、見直しなど、住民理解や啓発活動も併せて取り組みます。	○			○		
③	情報発信と情報の共有化	◇地域内で行われる各スポーツイベントや交流イベント、伝統行事など情報発信を行い、地域内の活動を周知するとともに、情報の共有を図り相互理解を深めます。	○			○		
④	あいさつ運動	◇あいさつなどの日常的な行動から会話が広がり、世代を超えた住民同士の心のふれあいももてる地域づくりをめざします。	○				○	
⑤	各種団体活動強化	◇まちづくり構成団体とのより強化な連携と支援を図っていきます。	○			○		

4. 地域産業振興分野		産業の充実で若い人が集まるまちづくり									
		実施主体			実施時期						
施策		施策概要				住 民	協 働	行 政	短 期	中 期	長 期
①	集落営農組織の再構築支援協力	◇三河校区の農業の将来を考えた農業法人化組織を図るとともに、農用地の新たな活用について、地域とつながった支援協力に取り組みます。					○				○
②	農地保全と利活用対策	◇耕作放棄地の有効活用や保全対策と維持管理の対策を行政とともに検討します。					○				○
③	担い手の育成	◇農業・伝統産業を支えていく担い手の減少の中、多様な担い手育成事業を行政へ要望し、支援協力に取り組みます。					○			○	
④	高齢者と女性が元気で輝く地産地消の推進	◇高齢者や女性が活躍できる環境や制度の整備を行政と研究するとともに、農業・特産品等の直売所の開設を進めます。					○			○	
⑤	若者定住化対策	(ア)若者の働く場を創出する活動を提案し、要望していきます。				○					○
		(イ) 企業誘致・起業支援・制度資金助成等への取り組み。						○			○

用語解説

実施主体

住 民	地域住民が主体的に取り組む事業・活動
協 働	住民と行政等が責任と役割をもって取り組む事業・活動
行 政	行政が主体的に取り組む事業・活動

実施時期

短 期	早めに取り組む（概ね3年以内）
中 期	近い将来取り組む（概ね4年～6年以内）
長 期	じっくり時間かけて取り組む（概ね7年～10年以内）

第6章 その他

— まちづくり団体とは —

現在八女市には21団体が組織されています。小学校の通学区域、または歴史的文化的に深く結びつきがある地区の主要な地域活動団体が構成員となり、規約等を整備し共同体意識をもって、地域の活性化やまちづくり施策を推進していく住民組織で、校区まちづくり協議会や自治運営協議会、地域振興会議などがあります。

21のまちづくり団体

地区名	まちづくり団体名
八女地区	福島地区まちづくり協議会
	長峰校区まちづくり協議会
	上妻校区まちづくり協議会
	三河校区まちづくり協議会
	八幡校区まちづくり協議会
	川崎校区まちづくり協議会
	忠見校区まちづくり協議会
	岡山校区まちづくり協議会
黒木地区	黒木地区自治運営協議会
	豊岡地区自治運営協議会
	串毛地区自治運営協議会
	木屋地区自治運営協議会
	夢かさはら自治運営協議会
	大淵地区自治運営協議会
立花地区	光友地区地域振興会議
	北山地区地域振興会議
	白木地区地域振興会議
	NPO法人迎春地域振興会議
上陽地区	上陽地区まちづくり協議会
矢部地区	矢部地域づくり協議会
星野地区	星野地区まちづくり協議会

— 地域振興計画とは —

まちづくり団体が区域の現状や課題を明らかにし、将来のあるべき姿や理想とする地域像を定め、その実現に向けた基本方針を示す長期的計画で、概ね10年後の地域の将来像を目標として、実現するための手段や課題解決に向けた基本的施策を定め年次計画にまとめるものです。



付属資料

1. アンケート調査意見集
2. 三河校区地域振興計画策定委員名簿

三河校区地域振興計画アンケート調査意見集

あなたが三河校区内で自慢できるもの（抜粋・要約）

性別	年代	意見
男性	10歳代	◇静かで住みやすい環境である。
女性	20歳代	◇日常生活がとても便利。（買物、病院、学校など）
女性	20歳代	◇自然が多い。道路なども昔に比べてきれいに整理されて安全。 ◇べんがら村周辺の施設。春は桜がとてもきれい！！
女性	30歳代	◇特にないと思う。
男性	40歳代	◇人の良さ。
男性	40歳代	◇鍵をかけなくても外出できる。 ◇セブンイレブンがある。矢部川。宮野公園。公立病院。
女性	40歳代	◇ほどよい子どもの人数のため、保育所から小・中学生の環境が大変良かった。
女性	40歳代	◇卒業証書が和紙の手作りで、とても良いと思う。
女性	40歳代	◇農産物・伝統工芸品（和紙など）・菊。 ◇べんがら村・矢部川。
女性	40歳代	◇三河小学校。旧八女市の小学校の中ではとても良い学校だと思う。 生徒数が少ないので増やしていくことが課題だと思う。
女性	40歳代	◇べんがら村、共生の森。
男性	50歳代	◇千灯明。
男性	50歳代	◇清流矢部川。
男性	50歳代	◇人です。
男性	50歳代	◇町全体の交流が良で親切。
男性	50歳代	◇矢部川の清流。美しい田畑。
男性	50歳代	◇人口が少ない、都市ではない事。
女性	50歳代	◇千灯明・紙すき・べんがら村・矢部川、これらは資源であり魅力であり強みではなかろうか？
女性	50歳代	◇住みやすい所。
女性	50歳代	◇犯罪が少ない地域だと思います。治安は良いと思うし緑も多い。
女性	50歳代	◇矢部川。桜と菜の花。
女性	50歳代	◇矢部川は景色も利用の仕方（マラソン、ウォークラリー）も、素晴らしいと思います。
女性	50歳代	◇下福島のまちづくりは、落ち着きがあって素晴らしい。まだまだ観光に力を入れるとまだいいと思う。
女性	50歳代	◇田畑がとてもきれい。
男性	60歳代	◇水がきれい、星がきれい。

男性	60 歳代	◇川や田畑など環境に恵まれた町。
男性	60 歳代	◇野菜、果物など農産物の種類が豊富で、伝統工芸が多い豊かなまちである。（これを生かす）
男性	60 歳代	◇自然環境に恵まれて、災害も少なく農産物も色々と充実した品物が出来る土地だと思います。
男性	60 歳代	◇宮野の矢部川の自然。
男性	60 歳代	◇遊歩道（矢部川沿い）があること。温泉があること。
男性	60 歳代	◇美しい自然。
女性	60 歳代	◇一年中矢部川の景観が素晴らしい。
女性	60 歳代	◇人が穏やかで、他人を尊重して付き合っている人が多いと思う。
女性	60 歳代	◇果実が豊富。 ◇道路の整備が良くできている。 ◇隣組の人間関係がとっても良い。
女性	60 歳代	◇手すき和紙、提灯。
女性	60 歳代	◇美しい自然。
女性	60 歳代	◇飛形山が望めて景色の良いところ。
女性	60 歳代	◇皆さん、人がいいんですね。住みやすい所です。
女性	60 歳代	◇自然が豊かで、病院も近くにあり買い物も便利。
女性	60 歳代	◇べんがら温泉、矢部川、宮野公園。
女性	60 歳代	◇べんがら村、宮野公園。
女性	60 歳代	◇町内の人達が温かな気性で安心して暮らしていけます。
女性	60 歳代	◇地域資源回収の徹底に感謝いたします。
女性	60 歳代	◇交通の便は悪いかも知れないが、静かでのどかなところ。
不明	60 歳代	◇山紫水明の地であり美しい環境である。田舎の風景ながら、車があれば便利な土地である。
男性	70 歳代	◇べんがら村と宮野公園、共生の森。
男性	70 歳代	◇矢部川と周辺的环境。遊歩道。
女性	70 歳代	◇朝から笑顔で参加できるグラウンドゴルフ。
女性	70 歳代	◇土手や道路などの清掃、皆さん達の協力は素晴らしい動きです。
女性	70 歳代	◇矢部川の景色と飛形山。彼岸花、月見草。 ◇住民による堤防の草刈り。
不明	70 歳代	◇よど祭り。
男性	80 歳以上	◇矢部川の堤防資源（宮野より矢原まで）。全域で矢部川の水面まで下り、歩けるように整備して、親しめるようになれば良い。
男性	80 歳以上	◇三河地域に歴史的文化施設があるので、これを校区の方が知り得る様にすべきである（光明寺跡地、坂本画伯アトリエ跡地、校区の古墳の跡地ほかがある）。校区の出身の文化人の方もいる（今里龍生先生ほか）。

男性	80 歳以上	◇酒井田柿右衛門誕生の地、酒井田に居住しながら知らない人が多すぎます。
男性	80 歳以上	◇矢部川流域を活用したスポーツのさかんな町。(柳瀬グラウンドゴルフ場・矢原公園) ◇べんがら村の観光、よど祭り、宮野公園の花火打ち上げ。 ◇公立病院を中心とした医療、いやしの町。
女性	80 歳以上	◇川魚。
不明	80 歳以上	◇人間関係、矢部川。
不明	不明	◇宮野公園の楠の大木(樹齢何百年?)。

あなたが理想とするまちづくり(抜粋・要約)

性別	年代	意見
女性	20 歳代	◇歴史的な町並みも大事にしながら、それを生かした飲食店や交流の場があるお洒落な街。
男性	40 歳代	◇三河小学校児童数 500 人のまち。
男性	40 歳代	◇日本古来の伝統文化を大切にするまち。
女性	40 歳代	◇子育てしやすいまち。(人口も増え栄えて行くと思う)
女性	40 歳代	◇久留米市みたいな町。
女性	40 歳代	◇三河校区外から多くの人が集まってくる魅力のあるまち。
男性	50 歳代	◇福岡市東区、西区のようなまち。
男性	50 歳代	◇高齢者、子ども、女性が不安なく安心して暮らせるまち。
男性	50 歳代	◇隅々までが道路及び水路が整備されたまち。
男性	50 歳代	◇老いても、歩いて行ける範囲に買物が出来るまち。
男性	50 歳代	◇人にやさしい暮らしができるまち。
男性	50 歳代	◇若人が働く所があり、高齢者も生き生きと生活できる魅力あるまち。
男性	50 歳代	◇道路などにごみ等がない美しいまち。
男性	50 歳代	◇中国に町全体が株式会社となり、住民が社員活動という町内があるという報道があり、理想としています。
女性	50 歳代	◇例えば久留米の宮ノ陣や長門石のように、1 つの町に生活する上で病院、学校、小売店、金融機関、交通手段などが整っているまち。
女性	50 歳代	◇電線を地下に埋めて、歴史文化を生かした町づくりにしては。 ◇道路の草がきちんと清掃された町づくり。
女性	50 歳代	◇個人個人が集団的にまとまり、他人を大切にするまち。
女性	50 歳代	◇隣近所のコミュニティーが充実し、3 世代の家庭がたくさんあり、車を持たずに生活ができるまち。
女性	50 歳代	◇久留米市みたいな都市。 ◇犬や猫を保護する施設等が十分にあるまち。

不明	50 歳代	◇一番近くの市とすれば筑後市。(若い人達が結婚して、アパートを借りれば市から月に2~3万円支給されると聞きました)
男性	60 歳代	◇既成の組織(町内会など)の日常的な活動のなかで、例えば「祭」を企画し「住民力」を引き出していくまちづくり。
男性	60 歳代	◇全てにおいて八女市に求める事で、まちづくりは各校区で出来る事ではありません。
男性	60 歳代	◇若者が地元で働けるまち、後継者も子どもも増え、にぎやかになる。
男性	60 歳代	◇お年寄り生き生きと、子ども達は元気に遊ぶ声がいっぱい聞こえる様な、そんな町になればいいと思います。
男性	60 歳代	◇田舎の特性を生かした緑豊かで清潔なまち。 ◇若い人たちが都会に出て(特に若い女性等)、将来は帰省して住み付ける安全・安心で利便性の(道路網)ある「まち」。
男性	60 歳代	◇自己啓発、感性を育む町。
男性	60 歳代	◇人が集まる町。
男性	60 歳代	◇健康で生活する人の多い町。(子どもの時から健康について学ばせる、またその実践)
男性	60 歳代	◇地元の仕事があり、三世代が暮らせるまち。
男性	60 歳代	◇高齢化進み、地域間の情報を公開し、近隣との交流を活性化する。
男性	60 歳代	◇道路がきれいで、ハチ(蜂)などがいないまち。
男性	60 歳代	◇道路幅員が広く、車の利便性が良いまちづくり。
女性	60 歳代	◇星野は山間の場所とは思えぬ交通、まちづくり等、あこがれの自然の美しい場と思う。
女性	60 歳代	◇積極的に行事に参加する活動的なまち。
女性	60 歳代	◇まち全体で子どもをまもり育てていくために、老若男女協力していけるようなまち。
女性	60 歳代	◇久留米市は①水と緑を大切にしている。②歴史に対する考え方。③人を中心とした町づくり。
女性	60 歳代	◇今のままでいいんですが、道路が狭いのもっと広くなれば理想のまちとなります。
女性	60 歳代	◇老若男女問わず、顔見知りでも知らない人でも会えば明るく挨拶し、健全で共に助け合い、いたわりあっていける優しくて清潔な場所と人間関係ができるまちづくり。
女性	60 歳代	◇高齢者や一人暮らし者に、安心・安全な福祉豊かなまちを要望します。
不明	60 歳代	◇都市との交流等、人との交流に寛容なまち(地域)づくり。
男性	70 歳代	◇災害に強いまち(地域)。(工業、産産を河川を中心とした地盤に誘致。やや高台に団地、住宅、商業施設等、その少し高い所に教育関係(小・中・高・大学など)、それを公共交通などでつなぐ)。

女性	70 歳代	◇心やさしく、常識者の人づくりをお願いします。
女性	70 歳代	◇安全で思いやりのあるまち。 ◇若者が住みやすいまち。
男性	80 歳以上	◇行政区の自治活動が活動的なまち。(区の行事の実践・老人クラブ・子ども会の活動、その他奉仕活動等を充実し、その中で校区で問題あるものは校区で解決していく)
男性	不明	◇すべての人が平等なまち。

あなたの意見・提案（抜粋・要約）

性別	年代	意見・提案
男性	10 歳代	◇犬の鳴き声で眠れない。 ◇不法駐車。 ◇犬の放し飼い。
男性	30 歳代	◇県道 792 号線において、大型トラック等の抜け道として利用されているため、進入禁止又は時間帯で区切った進入禁止にして欲しい。八女っ子未来館もでき小学生の通学路でもあるため、小さい子どもにとって大型トラックが猛スピードで走行するので大変危険。
男性	30 歳代	◇若者が集まるイベントがあれば良い。 ◇土日祭日と仕事をしており、町内の行事が多く仕事を休めず出不足を払わなくてはいけないのでキツイ。 ◇昔からの行事が多く、負担である。もう少し簡素化してほしい。
女性	30 歳代	◇団地はもう少し役所の方に参与してもらいたいです。ルールは守らず、やりたい放題の人が多く、とても子育てできる環境ではありません。
女性	30 歳代	◇昔ながらの近所付き合いも大切だと思うが、若い人達がもっと入りやすい環境は必要だと思う。
女性	30 歳代	◇近所の方が挨拶をしてくれる事がとても気持ちが良いです。私も子ども達や周りの方に良い気持ちになってもらえるよう、挨拶を頑張ります。
女性	30 歳代	◇若い人、子どもが少ない。
女性	30 歳代	◇このアンケートの回答は高校生以上とありましたが、広い意味でまちづくりを考えるなら小学生位の子どもの意見も聞いてみてもいいのでは。まちづくり協議会のメンバー構成比（男女・年齢）がわかりませんし、すでに実行済なら申し訳ありませんが、子どもを巻き込んだ活動（資源ごみの回収除く）もありがたと思います。
女性	30 歳代	◇まだ住んでまもないのでよく分かりませんが、子ども、高齢者が住みやすい環境になったらいいと思います。
女性	30 歳代	◇街灯を増やしてほしい。

女性	30 歳代	◇子どもが遊ぶ公園や広場がないのが残念。家の道路などで遊ぶことになってしまい危険である。子ども達が学年が上がるにつれ、楽しく体を使って遊べる充実した公園があればうれしい。
女性	30 歳代	◇犬の放し飼いでフン尿がきたない。 ◇車庫の前に無断駐車で迷惑している。 ◇ミラーの必要な場所がある。ヒヤットとする所がある。きちんと検証して設置すべき。
女性	30 歳代	◇町内会費が高い上、新しい公民館のためと毎月支払う料金が 高い！！公民館はそんなに広く作る必要もないと思う。
女性	30 歳代	◇大内医院の点滅信号から団地に入ると、街灯はほとんどなく真っ暗です。秋、冬に一度見て下さい！！中学生は部活から自転車で帰りますが、大人でも怖いくらいです。何かあったら、誰も気づかないくらい真っ暗ですよ！通学路ですよ！！考えて下さい！！
男性	40 歳代	◇防災対策にもう少し力を入れてほしい。
男性	40 歳代	◇とにかく子どもの遊び場所がない。
男性	40 歳代	◇今年生まれた子どもが 20 年後に何人三河で居を構えているか？。「まちづくり」は、今を見るのか明日を見るのか、それ次第では協力も考えさせてもらおう。協議会の趣旨が皆に伝わっていない、私も知らない。
男性	40 歳代	◇イベントは地域の人に協力を求めず、協議会のみでやってほしい。参加したくないのに、お世話させられて困っています。
女性	40 歳代	◇三河校区には、べんがら村があるのでもう少しその周辺を整備すればいいと思います。
女性	40 歳代	◇小さい子どもだけでなく小学校高学年、中学生等が遊ぶ（学ぶ）場所（施設）がない。八女図書館なども校区外なので、小学生高学年でも行けない。
女性	40 歳代	◇子どもより高齢者の方が多くなってきているので、高齢者が楽しめる催しや集い等、近くであればいいと思います。多世代交流館内の情報も、もっとアピールすると良いと思います。
女性	40 歳代	◇仕事や子育てで忙しいので、行事を少なくしてほしい。
女性	40 歳代	◇宮野公園には、小さい子どもが遊ぶような物がないから作ってほしい。また、安心して散歩できる道を作ってほしい。
女性	40 歳代	◇共生の森の持つ特性をもっと広げて、老若男女が気軽に集える場所。子どもがいつでも遊びに行けて、世代を超えた交流のある場がほしい。（西日本新聞に載っている「きんしゃいきゃんぱす」のような）。
女性	40 歳代	◇まちづくり行事や活動への参加については、若い人は忙しい。50 歳過ぎたら余裕ができるのでは。
女性	40 歳代	◇三河校区はとにかく子どもの数が少ないと思う。

女性	40 歳代	<p>◇三河食材を使った町対抗で「B級グルメコンテスト」、販売も。</p> <p>◇菊の展覧会・販売。</p> <p>◇伝統工芸品の展覧会・販売。</p> <p>◇矢部川でカヌーレース、釣り堀。</p> <p>◇三河校区の夏まつり。</p>
女性	40 歳代	<p>◇べんがら村や共生の森の活用を希望したい。赤ちゃんからお年寄りまで、もっと活用できる方法はないだろうか。</p> <p>◇いろいろと協力、理解を得てありがたいと思う反面、私個人の意見で申し訳ないのですが、団地は母子家庭が多いため、男性の力を借りたいと思う事がある。お願いをして男性の力を借りたり、小学校のテント張りなど先生の力を借りたりして現状を維持している。子ども達にもお父さん（男性）の力強さを教えてやりたい。私はコミュニケーションが苦手なので、他の人と意見が違うかも知れません。よろしくお願いします。</p> <p>◇アンケートを三河校区でも、定期的に行ってほしい。</p>
男性	50 歳代	◇歩いていけるスーパー（食料品、衣料品など）がない。
男性	50 歳代	<p>◇地域行事が多過ぎる。簡略化していくべき。</p> <p>◇まちづくりの行事や活動は、画一的な押し付けと感じる。</p>
男性	50 歳代	<p>◇住民の高齢化が進む今後、若い世代が市内に住みやすい環境づくりが必要です。</p> <p>◇伝統や歴史に重点を置く事も大切ですが、各行政区内の道路整備や環境問題（ごみ廃棄・悪臭等）及び台風等自然災害に対する対策など、市行政へ提案願います。</p> <p>◇行政区長を中心として、町内のコミュニケーションは良く、他地区よりも魅力があり、上記の一部の環境面の問題が改善できれば、みんな住みやすいまちづくりが可能と思います。</p>
男性	50 歳代	◇交通の不便。筑後市の様に、JR・西鉄電車等があればもっと生活も違ったと思うし、会社も進出していたのでは。
男性	50 歳代	◇高齢者が利便性の良いまちづくり。例）スーパー（買物が不便）、交通網の整備。
男性	50 歳代	◇各家庭の事情があるだろう、町内会行事も中高年の参加が多い。若い人達が参加出来る工夫も必要でしょう。若手と高齢のバランスも考えなければ。
男性	50 歳代	◇校区まちづくり協議会活動より、集落の活動が先ではないかと思う。
男性	50 歳代	◇矢原に橋を渡してほしい。矢原グラウンド近くに橋を渡し、交通の核とする提案（北山から矢原に出来る橋を通して夢タウンの方に道路を）。

男性	50 歳代	◇衣食住という人権の3原則があります。衣と住はそれぞれ充実しているが、食についてはT P P問題等があり不安です。そこで農業を充実させ、自給自足かあるいは株式会社を設立し、雇用を促進し明るいまちづくりをめざす。
男性	50 歳代	◇三河校区をよく把握していないので、今はなんとも・・・。
女性	50 歳代	◇紙すきなどの伝統工芸がせっかくあるので、もっと広めて住民も活用できると良いと思う。 ◇小中学校の活用をいろんな場面でできればと思う。 ◇老若男女、ひきこもりのないまちづくりをやりたいですね！
女性	50 歳代	◇子どもが成長し、高齢の母と夫婦（50・60代）、長男（30代）で暮らしています。近所の高齢の方たちを見ていると、自分たちの将来の事を考えてしまいます。若い人たちが同居していないケースも多く、高齢者に対して地域でもっと関わっていく必要があると思います。遠方に子どもさんがいらっしゃる方達は、本当に大変そうです。
女性	50 歳代	◇公園が2箇所あります。近くに立花町の千間土居と宮野公園ですが、その場所に子猫、子犬を平気で捨てに来る人が多すぎます。法律があっても減らないのはどうしてですか？生命のあるものは人間も動物も同じだと思いませんか。
女性	50 歳代	◇地域の高齢化が進み、清掃作業などに無理が生じてきている。行政とのうまい連携はないものかと思えます。
女性	50 歳代	◇一部の紙すき屋さんが薬液を水路に流されるのが苦痛です。冬場は水が流れないため、水路に薬液が溜まりとても臭いです。行政に相談しましたが無理と言われました。一部の方の身勝手な行動は許せません。
女性	50 歳代	◇歩道の整備が中途半端だと思う。 ◇べんがら村の公園の活用、子ども達が遊べる公園。 ◇福島公園をまだいろんな方法で活用してはどうか。
女性	50 歳代	◇現在どの家も共働きが多くなった中、夕方幼稚園などに迎えに行くボランティアや、休みの日など預かってもらえるボランティアの人などが居たら助かると思います。
不明	50 歳代	◇三河校区においても、10年前と比べて何も目に見えて変わっているとは思わないが、ただ高齢化と空き家が増えていると思う。若い人は地元の就職が限られているから、ますます福岡など外にでている。市もそれなり対策を講じて行く必要があると思う。
不明	50 歳代	◇昔ながらの伝統行事をそのまま継承し、参加は強制的。仕事を休んでまで参加しなくてはいけないので、時代と共に変えて欲しいと思う。 ◇草刈りの作業などお盆の頃にする必要があるのか。堤防の草刈りな

		ど、回数が多過ぎる。(真夏に体調をこわしてでもする必要があるのか)
男性	60 歳代	◇若者の仕事場を作り、空き家を少なくする。子どもが多く住めるまちづくり。
男性	60 歳代	◇矢部川沿いの道路を拡張してほしい。幅が狭いので、いつも危ない運転をしている人が多い。
男性	60 歳代	◇犬の鳴き声で夜眠れない。犬の放し飼い。 ◇不法建築(家の改装)で、4 t 車が通れない。 ◇災害の時、消防車が通れない。 ◇不法駐車。
男性	60 歳代	◇生活環境の整備を促進してもらいたい。少子高齢化、空き家及び耕作放棄地の増加に伴い、校区内の下水道は未整備のままです。例えば家庭排水は在来小河川への垂れ流しであり、結果小河川は雑菌・悪臭の根源となり不衛生です。計画的な対応を希望します。緑豊かで自然があり、衛生的にも整備された田舎には、老人・子どもにも魅力があります。
男性	60 歳代	◇川や田畑など環境に恵まれた町であることを強みとして生かし、文化活動、スポーツ活動、介護福祉活動を小さなグループから始め、その輪を広げる事で人が集まる町づくりを進める。
男性	60 歳代	◇高齢者が多くなり、1人～2人住まいの所が毎年増えている。人と人とのつながりを持つ、何かをやってほしい。
男性	60 歳代	◇「医食同源」・・・日本で一番医療費が少なく、健康で生活する人の多いまちづくり。日本で一番長生きする人の多いまちづくり。現医療費の1/3ぐらいを目標に取り組む。 ◇「予防医学」・・・健康生活予算を八女市につけてもらう。
男性	60 歳代	◇人口減少を止める対策が急務。
男性	60 歳代	◇若者が住み、子どもの多いまちづくりをする。
男性	60 歳代	◇まちづくり計画を知らない(存在を知らない)。周知を!
男性	60 歳代	◇三河校区及び小学校の月行事等の広報誌(コピーでも可)があれば、もっと近隣との付き合いも増えるのではないかな?
男性	60 歳代	◇地域の議員さんは、選挙の時だけは各町内にあいさつ等で来ますが、その後はまったく来ません。日頃から各町内の人々と触れ合ってもらいたい。そして、この三河校区をどうしたいのか意見を伺いたい。「きれいごとばかり言っても、前へは進まない」。
男性	60 歳代	◇矢部川の自然を生かし、グラウンドゴルフや遊びに使える多目的広場の整備。
男性	60 歳代	◇公共の駐車場の整備(無償)。 ◇警察のパトロールが足りない。

男性	60 歳代	◇地域振興計画を策定後の実施計画はどのようにされるのか。またアンケートを実施されるのか。校区のまちづくり計画は、実施計画が重要と思います。
男性	60 歳代	◇運動会はやめた方が良い。普段運動していないのに急に走ったり危険、実際毎年ケガ人が出てる。参加者が少なく、役員、その家族等に必ず回ってくる。嫌でも出ないといけない(そういう雰囲気になる)、逆に参加しないと悪く言われる。毎年やっているからとか、そういう理由でならやめた方が良い。
男性	60 歳代	◇2025年問題(畳の上で死ねなくなる)の克服のため、他人に知られたくない情報の一部、例えば救急車を呼んだ時の様子、その結果等、今まで積み上げてきた生活力(経済力も少し)の一部等を町内で共有し、他人に少し干渉することを許し、町内の活性化を促して「住民力」を磨いていく。
男性	60 歳代	◇この協議会の活動のメインは、学童・学生が居宅している世帯なのでしょうか?ほとんど啓発、情報が伝わってきていません。従来の保守的な地域ですから一部の有志が前面に出て活動されているのでしょうか?保守的で強制的な団結が見えますね!
男性	60 歳代	◇まちづくり協議会について、どんな形で啓発されていますか? ◇参加したい活動は、人権のまちづくりの推進! ◇住みにくい理由として、下水道の課題、必要のない風習が続いている、自宅でのごみ焼きなど、生活ルールを守っていない。
男性	60 歳代	◇清流矢部川をメインにアピールしたい。
女性	60 歳代	◇隣組での助け合いが出来ているので、これがこの先も続いてほしい。 ◇川や道路の危険箇所に、以前立てられた看板が消えかかっている物が多く、きちんと整えてほしいです。
女性	60 歳代	◇農業用水路の定期的な河川整備が必要と思われる。(春、秋と道路愛護はありますが、河川は草が茂っている。市に整備を依頼したい)
女性	60 歳代	◇三河校区は住みやすいまちだと思っています。若い人が少なくなっているゆえ、いろんな文化を大切にしていきたいと思います。
女性	60 歳代	◇自身が高齢となり、なかなか地域の活動に積極的に参加できませんが、若い方々が三河校区のまちづくりについて、このように熱く考え行動されていることを知り大変うれしく思います。
女性	60 歳代	◇べんがら村の宿泊施設を作り、人が多く訪れるようにする。
女性	60 歳代	◇子どものあいさつが出来ていない。その時の校長による。
女性	60 歳代	◇最近不審者が多く見かけられ、子どもを持つ親御さんたちが不安になられると思うので、みんなで見守る体制ができていけばいいのにと

女性	60 歳代	◇三河校区は南は立花町、西は筑後市に隣接している。その割には立花町や筑後市へ行く際の標識が少ないと思う。もっと標識を多く！！ ◇企画するのに女性の意見が反映されていない。時代の流れに遅れており、八女市の陸の孤島的存在になろうとしている。
女性	60 歳代	◇橋も道路も老朽化して、ガタガタ、デコボコの所が多いから整備してほしい。
女性	60 歳代	◇矢部川流域の自然の豊かさにいつも癒されています。柳瀬の月見草の群生にも感動しました。この素晴らしい自然が壊されることのないよう、子ども達に自然と触れ合う機会が増えるような工夫をしていただけたらと思います。
女性	60 歳代	◇我が家もですが、子ども達が県外に出て家庭を持っているため、地元若い夫婦が少なく子どもが少なくなっています。若い人達が住みやすい魅力のあるまちになるといいですね。
女性	60 歳代	◇都市化より、若者による農業を中心とした地域産業を期待します。農業と福島の観光をコラボした地の利を生かして、観光コースとして果樹農園や食事処を三河校区あげて一か所に設けたらいいと思います。
女性	60 歳代	◇村中の道路が狭いので、川や溝などをふさいで広くしてもらいたい。
女性	60 歳代	◇べんがら村周辺をよりよくしてほしい。少し寂れ気味。 ◇べんがら温泉はきれいじゃなく、料金も高い。
女性	60 歳代	◇自然の中でずっと暮らして来ました。人生の中で、最後に何か楽しい事ができれば良いと思います。
女性	60 歳代	◇宮野公園で何かイベントが出来れば。(夏まつり、野外コンサート)
女性	60 歳代	◇以前みたいに小売業がすくなくなり、ちょっとした買物が不便になりました。
女性	60 歳代	◇朝早くからごみを燃やす人がいるからやめてほしい。自然にやさしい環境のよい町になったら、もっと住みやすくなるかも。
女性	60 歳代	◇年間の町内の行事も多く、負担を感じる。
女性	60 歳代	◇まだまだ自然に囲まれた緑豊かな環境に癒されます。
女性	60 歳代	◇子どもの減少で小学校に入学しても、1組がやっとと言う事が不安です。性格的に合わない友達ができてもずっと一緒のクラスで6年間過ごすことになり、そのストレスが心配です。みんなと仲良くできるようになる事が一番ですけど……。少人数なりの心配があります。
女性	60 歳代	◇三河校区に来てやっと来年で10年になります。私が思うことは住みやすい所ですが、まだまだ田舎独特な考え方があり、もっと仕事が出来るところがあれば良いと思います。都会から来たので、まだいろんな事で戸惑っています。

女性	60 歳代	◇私は間もなく 70 歳となります。色々な行事への出席を考えてしまうんですが、若い人達が子どもをまき込んでやれる事が大事じゃないでしょうか。
女性	60 歳代	◇働いているのに、地域行事が多く住みにくい。昔の考え方が抜けず、時代の波にのっていない。 ◇お茶、農産物などがあり、大きく産業化したら発展するのでは。
女性	60 歳代	◇空き家に他市から来て住んでいる人がいて、つきあいにくい。
不明	60 歳代	◇街灯をもう少し増やしてほしい。 ◇防犯カメラの設置をしてほしい。 ◇溝にヘドロがたまっているのできれいにしてほしい。
不明	60 歳代	◇スーパーや病院等へも近く、田舎の美しい風景もある。そこで地域を生かした都市部との交流を積極的に行い経済的な潤いがほしい。
男性	70 歳代	◇歴史的あるいは文化的財産の発掘が望まれる。
男性	70 歳代	◇昔の様に「向う3軒両隣り」の生活があって良いと思う。また、子どもの声が全く聞こえない、本当に寂しい町内になってしまった。顔を見たら先ず挨拶する様な人間関係であってほしい。
男性	70 歳代	◇今後認知症、徘徊者など増加が見込まれるため、八女市でも徘徊者情報メール（県が運営する防災メール「まもるくん」）を活用すべきと思います。
男性	70 歳代	◇地域づくりのカギは子ども達との「ふれあいと融和」を通して、地域・学校・公民館との三者連携による「活力あるまちづくり」意識をもっと教宣し、「体育・文化・自然環境」面での諸々の行事の連携強化を図ることで、「安全で快適な住み良い」まちづくりが進められると思います。
男性	70 歳代	◇教育環境が充実している中で育った若者が、成長して三河から外に出ないで働ける農業、工業、産業が盛んになる様に、現在住んでいる中高齢者が考えるべきだ。
男性	70 歳代	◇まだ、救急車や消防車が玄関先まで入れない所が多い。
男性	70 歳代	◇防犯対策、安全なまちづくり。（防犯カメラ設置等）
男性	70 歳代	◇これからむかえる後期高齢者生活に備えたい。
男性	70 歳代	◇歴史と文化の町として、三河史誌を作ってはどうか。（緒玉の坂本繁二郎アトリエ、酒井田の酒井田柿右衛門跡、遺跡、柳瀬の紙すきの今昔、高塚の観音など）
男性	70 歳代	◇70 歳以上、温泉入浴料を半分にしたい。誰でもいけるようお願いしたい。
男性	70 歳代	◇隣組組織の再編成。（組によって人数の差が大きすぎる） ◇出事を減らしてもらいたい。特に河川清掃、お宮掃除など無理。近年、河川の汚れが目立つので公共の予算でやってほしい。 ◇下水道整備を急いでもらいたい。

男性	70 歳代	◇犬の鳴き声で眠れない。 ◇犬の放し飼い。 ◇不法駐車。 ◇不法建築。(消防車が通れない)
女性	70 歳代	◇空き地に木や雑草が伸びすぎ、枯れ葉になって困る。 ◇夜中に犬の鳴き声。 ◇犬のフンを袋に入れたものを持ち帰らず、又捨ててある。
女性	70 歳代	◇私は今、車の運転をして買い物や病院へ行く事が出来ますが、もう間もなくできなくなります。子どもは病気でできません。先はどうなるか不安な面も抱えています。
男性	80 歳以上	◇私は老人会の会員でございますが、三河校区はご承知の通り 3,500 人位で、65 歳以上が旧八女地区で 30.2%と高齢化が進み三番目となっておりますが、老人会の加入者は減少しています。(会長さんをお願いします。三河校区の老人会長と話していただき、各町内の実績を聞いてください。)
男性	80 歳以上	◇生まれ育った住み良い秀丽の地で生きる喜びを共有し、先人の遺訓を次世代に伝承すべく、誰もが務めねばならないと思います。
男性	80 歳以上	◇校区は東側に矢部川と北川に花宗川に挟まれた土地で、自然に恵まれたところである。地名(集落)、小字(深田、水洗、古川ほか)など矢部川と花宗川に関係する名前が多い。農業(米・麦・花・野菜)生産、和紙生産なども深いつながりがある。校区は飛形山(450m)を仰ぎ、空が広く、美しい水が流れている。古代文化が開けて歴史ある土地である(深田遺跡は紀元450年位に出来た遺跡である)。
男性	80 歳以上	◇最近、若い人が増えたのではないかと思います。消極的な方々が目立ちます。私の偏見かも知れませんが、時代の流れにもう少し関心を持って、育児にも専念なさいませう様に。
女性	80 歳以上	◇農業の後継者がいなく耕作放棄地は増え続け、三河校区だけでは問題の解決が出来ぬ。生産者の所得が増え、八女市の特産として耕作放棄地を活用すべきである(他の市町では産・学・官で成功している)。 ◇子どもから高齢者まで健康なまちづくり、特に高齢者の健康体操(専門の指導員が必要)、また健康食の説明会等が必要。 ◇校区の区長や市議会議員等、視察に行き(例えば大分県姫島村)参考にすべきである。
女性	80 歳以上	◇人のうわさをしないこと。
不明	80 歳以上	◇私の住んでいる宮野は、昔から隣近所の人たちがとても温かい心の人が多いところです。私たち老人家庭はとても助けられています。
不明	80 歳以上	◇犬の放し飼い。鳴き声がうるさく眠れない。 ◇車の駐車、通りにくい。

不明	80 歳以上	◇矢部川が昔のようにホテルが生存し、外部から来訪され住み良い環境をつくりながら、居住者の増大につながるような整備をしていただく事を要望します。
男性	不明	◇校区運動会廃止。 ◇千灯明廃止。 ◇神社座元行事廃止。町内行事が多過ぎる！！
男性	不明	◇三河校区は古くより和紙、提灯、竹細工、弓矢など手工芸の盛んな地区であった。これらを再度まち起こしの1つとして取り組んで行けないだろうか。
男性	不明	◇ハウス事業者の路上駐車、消防団の意地悪さが他の校区よりも秀でている。
男性	不明	◇地域組織の解体、再構築。古い考えなどいらぬ、新しい風を吹かせること。このままなら若い人は住まない。
不明	不明	◇まちづくりについて考えられることは立派ですが、時代の変化には誰しも逆らうことは出来ないと思います。八女市は、時代の変化に早く気づきその流れに乗るべきです。
不明	不明	◇矢部川堤防、馬場から矢原まで道路として利用されているが、道幅がやや狭い、あと1m位広げれば非常に良いと思う。建設省管轄だから出来ない等の理由は、やる気がないからと思う。国会議員に働いてもらってでも、是非実現してもらいたい。

三河校区地域振興計画

企画・編集 三河校区まちづくり協議会

三河校区地域振興計画策定委員会

平成28年3月 発行

■この計画書は八女市地域づくり提案事業として、市の補助金を受け作成しました。